

古活字版『帳中香』カナ抄集成

山中延之・萬清行

《解説》

はじめに

室町時代の禅僧、万里集九（一四二八？）は、宋代の詩人黄庭堅（姓は黄、名は庭堅、字は魯直。山谷道人と号し、ふつう号を以て黄山谷または単に山谷と呼ばれる。本稿でも山谷で統一する）の詩を注釈して『帳中香』と名付けた。

『帳中香』は、いわゆる抄物資料の一つとして知られているが、そのほぼ全てを漢文が占め、また二十巻と大部であるために、日本語・日本文化の資料としては、従来殆ど利用されることのないものであった。また中国語・中国文学の資料としても、所詮は日本という当時の文化的辺境の所産であるためか、やはり顧みられること稀なものであった。

しかしそのわずかな本資料についての専論の中に、かめいたかし氏「漆桶万里が 作の 抄ものの うちから」がある。これは、本抄中のわずかなカナ抄のうちに、当時の口語の姿が非常に生々しい形で残っていることを明らかにした論である。これに従って考えれば、量は決して多くないものの、本抄のカナ抄は、当時の日本語について貴重な証言を提供してくれるのでは

ないか。本稿の筆者らは、そのような目的から本抄のカナ抄を拾っていく作業を開始した。そしてそのような目でみていくと、言語面に加えてカナ抄の内容面もまた、諺や和歌・自然・風俗など当時の文化的な資料として貴重なものを持っていることが明らかになってきた。

たとえば巻七上20丁表12行目（丁・行数は以下特に注記のない限り全て古活字版による）に、「比此三馬則餘凡馬皆是ダムマノ如也」という抄文がある。ここに見られる「ダムマ」という語は、「駄馬」、すなわち荷を引く馬のことであるが、『日本国語大辞典第二版』に挙げられる初出例は江戸時代末期のものであり、この例はそれを三百年以上遡ることになるのである。

このダムマがさらに面白いのは、『たま（駄馬）』という語形であれば、日葡辞書に例が認められるということである。二種類の語形が何らかの関係で併存していたのか、それとも「ム」の音がある場合には聞き取れないほど弱く発音されていたのか、など、当時の言語の状況について考える材料を提供する例と言えるのではないだろうか。

また日本文化史的な方向からは、次の記述などが興味深いものとして挙げられる。

本邦之貞女想其夫之行歌云、風吹ヲキツ白波タツタ山夜半
ニヤ君獨行ラム。貞女ハ伊勢ト云美人、伊勢モノガタリノ
伊勢也。夫ハ成平ノタツタヘカヨワル、時、其路ガウダフ
多シ。白波トハガウダフ、ヌス人ヲ云。伊勢ソレヲカナシ
ミテヨメル歌也。(卷十上35丁表05行目)

『伊勢物語』の歌の異伝「風吹けば沖つ白波竜田山夜半にや
君がひとり行くらむ」を紹介するものであるが、歌人の伊勢を
業平の妻であるとしている点が注目される。伊勢が業平の妻で
あり、『伊勢物語』も彼女の手によってなったという説は、『和
歌知頭集』や冷泉家流古注など、古注時代の注釈に見られるも
のである。しかし旧注時代の注釈(一条兼良『伊勢物語愚見抄』
・肖柏『伊勢物語肖聞抄』など)は、伊勢作者説は採るものの、
あまりに荒唐無稽であったためか、伊勢妻説は紹介さえしてい
ない。またこの「風吹けば」歌を伊勢の作とする説は、古注に
さてもそのような記述を見ないものである。そのような奇説が
五山禅僧の著作の中に現れるということは、伊勢古注の流布の
あり方を考える上で、見逃すことのできない重要な資料となる
ように思われるのである。

本稿は、右のような調査の成果を共有し、多くの研究が『帳
中香』を日本語・日本文化史などの資料として活用できるよう
にすべく、カナ抄の全文を抜粋して翻刻するものである。もつ
とも、かめい氏が強調するように、「抄ものとは語学資料では
ない」し、『帳中香』は「カナがまじっているから」としてカナ抄
ではない」。従って、本稿に集成されたカナ抄部分を見るのみ

では、当時の日本語や日本文化の姿を考えることは不可能であ
り、詩本文あるいは漢文抄部分との関連のもとで理解しなくては
ならないことは勿論である。本稿はただ、珍しくて興味深い、
そして何より読んでいて楽しいカナ抄の部分を、そのような豊
穡な内容への入り口として紹介するに過ぎない。このカナ抄集
成をきっかけにして、抄物と中世日本語・日本文化の世界に足
を踏み入れる研究者が一人でも増えることが、本稿の筆者らが
ここに願った願いなのである。

抄者

編者・万里集九の生涯について、次の文献を参考に簡単に紹
介する。

玉村竹二氏「万里集九解説」(同氏編『五山文学新集第六
巻』東京大学出版会、一九七二)

中川徳之助氏『万里集九』吉川弘文館、一九九七

万里集九は、正長元年(一二二八)に近江国浅井郡に生まれ
た。はじめ東福寺に入り、次いで相国寺に移った。景徐周麟ら
と間の書簡が現存しており、また、『勅修百丈清規』の講義(統
抄物資料集成所収)の講筵にも連なっている。十五世紀後半の
京都五山のさまざまな禅僧と交流のあったことが知られる。と
ころが、応仁元年(一四六七)に応仁の乱が起ったため、近
江国ついで美濃国・竜門寺へと移り、さらに美濃・鶴沼に居を
移し「梅花無尽蔵」(南宋・陸游の詩「看梅帰馬上戲作」中の
語句にちなむ)と名付けた。その前後に還俗したと考えられて
いる(中川徳之助氏『万里集九』の推定では、文明一〇年(一
四七八))。還俗の後には漆桶万里と号した。文明一七年(一四八

五)、江戸の太田道灌の招きを受けて東遊し、その折に山谷詩の講義を行った。文明一八年(一四八六)に道灌が謀殺されるが、その後もしばらく江戸にとどまり、長享二年(一四八八)に山谷詩の講義を終えた。翌年、鶴沼に戻って『帳中香』(二十一卷)を著した。この書名は、『山谷詩集』第三卷冒頭の「有恵江南帳中香者戲答」にちなむものである。他に、蘇東坡詩の注釈『天下白』、『江湖風月集』の注釈『棘門集』、『三体詩』の注釈『曉風集』で知られる。詩文集『梅花無尽蔵』がある。没年ははっきりしないが、文亀二年(一五〇二)の作品が『梅花無尽蔵』に収められており、景徐周麟の永正三、四年(一五〇六、七)頃の作品には既に亡くなったことが記されているから、その間に没したことが判る。

原典

『帳中香』が山谷詩の注釈書であることは冒頭に述べたとおりであるが、その山谷詩の諸伝本のいずれを注釈したものなのかということは、研究が少ないこともあり、これまであまりふれられていない。しかしこのことは、本資料の文献学的な位置づけを考える上できわめて重要な問題であり、ここでそれを明らかにしておく必要があると思う。

原典のことは抄者の万里も当然注意していたようであり、『帳中香』冒頭に、あらゆる注釈に先だつて次のように記述されている。

古本小板題号 山谷黄先生大全詩註巻第一、増注大板題号
云山谷詩集注巻第一 某師承用小板、故就小板作抄。大板

之事亦不可不引之也。(巻一上 04丁表)

すなわち、「古本」は小さい版で題に『山谷黄先生大全詩註巻第一』とあったのに対し、「増注」は大きい版であつて、『山谷詩集注巻第一』という題号を持っていた。師匠は小板の方を使っていたので、この抄『帳中香』もそれに基づいて作る。ただし、大板のことも、適宜触れないわけにはいかない、という由を述べているのである。この記述から、本抄が注釈の対象としたのは、『山谷黄先生大全詩註』(古本、小板。本稿では『大全』と呼ぶ)であり、場合に依じて『山谷詩集注』(増注、大板)を参照していたことが分かる。これは抄文のこの個所だけでなく、全篇にわたつて「古本・小板」と「増注・大板」との異同について言及するところが認められるのである。

これら『大全』『山谷詩集注』は、いずれも、日本に輸入され、五山版が作られているものである。川瀬一馬氏『五山版の研究』(日本古書籍商協會、一九七〇)の挙げる、資料番号221と222(ただし川瀬氏はこの本を二十五巻とするが、管見の限り全て二十巻本であつて、二十五巻のものは未見である)とがそれに該当する(同書 pp.471-472)。それによると、『大全』は「匡郭内、縦六寸二分、横四寸二分五厘」であり、『山谷詩集注』の「匡郭内、縦七寸一分五厘、横五寸四分五厘」よりも一回り小さいので、『大全』を「小板」、もう一方を「大板」と呼んで矛盾は生じない。『帳中香』が言及しているのはこれらの本だと考えて、恐らく大過ないであろう。

以上の考えから、本稿では『大全』を『帳中香』の原典と見なし、後のカナ抄集成で抄文と対応する本文を掲げるときも、

『大全』（国会図書館本）の本文で以て行うこととする。

なおこの二種の本は、山谷の作品集の伝本系統の中では、いずれも「詩注」系統に属する本である。彼の著作は、中国大陸でも非常に多くのものが出版され、またそれが日本にもたらされて覆刻版や古活字版が作られてもいるが、その伝本系統は大きく二つに分けることができる（この伝本系統についての記述は、劉尚榮校點『中国古典文學基本叢書 黃庭堅詩集注』（中華書局、二〇〇三）の「校點說明」の項目に基づく）。

一つは詩だけでなく賦や贊などの文章を含む、「全集」系統と呼ばれるものである。洪炎編『豫章先生文集』三十卷（『内集』とも呼ばれる）、李彤編『外集』十四卷、黃筥編『別集』二十卷などがここに属する。

そしてもう一つが、詩のみで構成される、「詩注」系統と呼ばれるものであり、任淵注『山谷内集詩注』二十卷、史容注『山谷外集詩注』十七卷、史季温注『山谷別集詩注』二卷が含まれる。

漢詩大系第十八卷『黃山谷』（倉田淳之助氏注、集英社、一九六七）には、山谷詩の諸本が紹介されているが、そのうち次の諸本が「詩注」系統に属するものである。

山谷外集詩注十四卷（宋史容撰 元刊本 宮内庁書陵部蔵）

影印本四部叢刊統編所収）

山谷詩集注二十卷（宋任淵注 旧刊本 米沢市立図書館蔵）

山谷黃先生大全詩註二十卷（宋任淵注 旧刊本 静嘉堂文庫蔵）

山谷詩集注二十卷（宋任淵注 古活字本 内閣文庫蔵）

山谷詩内集注二十卷外集注十七卷別集注二卷外集補四卷別集

補一卷（内集注宋任淵撰 外集注宋史容撰 別

集注史季温撰 乾隆五十四年南康謝氏刊本）

ここに挙げられた諸本のほか、『大全』は内閣文庫（国立公文書館）・東洋文庫に古活字版が伝わり、また国会図書館では元刊本が保存されていて、「国立国会図書館デジタルコレクション」で全部の画像が閲覧できる。一方『山谷詩集注』は、右の米沢市立図書館蔵本と同じ覆宋版五山版が京都大学附属図書館・早稲田大学にも伝わり、いずれもそれぞれのウェブサイト等で全部の画像が公開されている。

諸本

現存する『帳中香』諸本は、柳田征司氏「抄物目録稿（原典漢籍の部）」（『訓点語と訓点資料』一一三輯、二〇〇四）に詳しい。そこでは、写本十五点（内一点は焼失）、古活字版十六点が紹介されており、さらに柳田氏未確認の写本が二点存すると述べられている。写本のうち、十四点が室町時代の書写で、そのうち、西尾市岩瀬文庫本・国立国会図書館本・天理図書館本・東福寺本の四点が完本である。柳田氏は、天文五・六年（一五三六・三七）の書写識語を持つ岩瀬文庫本をもとに序跋の校異を取っており、岩瀬文庫本を重視していると考えられる。

写本の中でも、岩瀬文庫本は天文六年書写と、書写年代が明確である。ウェブサイト「西尾市岩瀬文庫」の「古典籍書誌データベース（試運転）」において、形態や識語等の書誌情報が

公開されている。

東福寺蔵本は笑雲清三が本文を書写し、万里自らが跋を加えたものである（阿部隆一氏「東福寺蔵笑雲清三自筆稿本『四河入海』万里自筆跋文清三書入『帳中香』外」『文献』四、一九六〇）。

国立国会図書館蔵写本、同館蔵古活字版は、同館ウェブサイトで全面像が公開されている。

本集成は、国立国会図書館蔵古活字版（請求記号・WAT-92）を底本としてカナ抄を翻刻した。この本を利用したのは、右に述べたように、全文の画像が公開されているからである。誤写がまま見られるため、同館蔵写本（請求番号・WAT688）の本文を附記したところがある（ただし、網羅的ではない）。この写本もウェブ上でその全部の画像が公開されている。

ところで、国会図書館本古活字版は「明応八年」の万里の跋文を持つが、同写本にそれはない。また、古活字版にあるカナ抄が写本にない、ということがある。これは、あるいは、『帳中香』の増補作業の反映であるかも知れない。今後の調査を期したい。

研究文献

『帳中香』に関する研究は多くなく、『国語学大辞典第二版』（小学館、二〇〇一〜二〇〇二）や『時代別国語大辞典室町時代編』（三省堂、一九八五〜二〇〇一）の用例出典一覧にも『帳中香』の名は無い。

そのような状況にあつて、

かめいたかし氏「漆桶万里が作の抄もののうちから」『国語学』八四、一九七二）

は貴重な論考である。

また、次の根ヶ山氏の論文は、従来日本語史研究において重視されてきたカナ抄のみにとらわれることなく、漢文抄を含む『山谷幻雲抄』の抄文全体の性格を究明したものである。そこでは、『帳中香』を初めてとする山谷詩の抄物を取り扱われている。

根ヶ山徹氏「月舟壽桂講『山谷幻雲抄』考」『東方学』一五輯、二〇〇八）

同様に『帳中香』を山谷詩の解釈に利用しようとする方法は、日本における中国文学研究においても認められる。次に掲げる倉田氏の注釈では、『帳中香』の名が山谷の詩題に拠ることを指摘している。また、荒井氏の注釈には『帳中香』を含む山谷諸抄の集成『山谷詩抄』が利用されている。

倉田淳之助氏『漢詩大系第十八巻 黄山谷』集英社、一九六七

荒井 健氏『中国詩人選集二集第7巻 黄庭堅』岩波書店、一九六三

《カナ抄翻刻》

凡例

一、国会図書館蔵古活字版『帳中香』から、カナで表記されている箇所を網羅的に抜き出して掲出する。古活字版を底本に選んだのは、小書きの傍訓や送り仮名が付されていないということが主な理由である。このため、あるカナ書き部分、独立した抄文なのか、漢文抄に従属した訓点に近いものなのか、写本に比して判別しやすいのである。

一、掲出の順序は、詩題・詩本文・訓読（・注・訓読）・カナ抄。カナ抄以外の部分は読解の便宜のために稿者が付したものである。

一、詩題・詩本文およびそれに付された注は、国会図書館蔵元刊本『山谷黄先生大全詩註』（請求記号 W335-9）に基づく。

一、右の元刊本は訓読が書き込まれているが、その加点年代が不明であるため、訓読は、寛永版『山谷詩集注』（京都大学文学研究科図書館所蔵、請求記号「中哲文111Ⅱ e122-8」）「寛永^己曆季槐下澣 洛陽書堂 大和田意閑^開」の刊記を待つ）を参考に付した。

一、詩題は【 】で括って表した。一題に複数の詩が収められている場合、第何詩であるかを記した。また抄文が題に対する注である場合には、「題」と注記した。

一、詩本文は、カナ抄の注釈対象となる部分（『帳中香』の中

では、冒頭二文字だけが簡易的に掲示されるのみ）を抜粋して訓読とともに掲げた。なお、カナ抄の注釈対象が詩題・詩本文でなくそれに付された注である場合には、当該被注部分とその訓読をも併せて示した。

一、詩題・詩本文に付された注は、〔 〕で括って表した。

一、カナ抄はゴシック体で示した。

一、カナ抄の所在は、各巻ごとに、「07ウ09」のように示した。最初の数字から順に丁数、表または裏、行数を表す。行数は小書きの文字を基準に数えた。なお、小書きを基準に数えると、半丁の行数は十七行である。

一、所在に関して、巻次は、各項目ごとではなく、巻ごとのまとまりの最初に□で囲って示した。

一、原則的にカナ抄一個所につき一項目として掲出した。ただし、注釈対象が同じ部分であるときは、一つの項目にまとめたところがある。

一、表記について、字体は可能な限り底本のままとしたが、コンピュータ上で処理可能な字体の制限から、一部対応できないものもある。その場合は、なるべく近い字体で代用した。

一、底本には濁点・句読点が一切付されていないが、翻刻では読解の便宜のためにこれを補った。

一、明白な誤りと思われる箇所についても底本のままとし、国立国会図書館蔵『帳中香』写本（請求記号・W47-92）との異同を付した。

序上（無し）

序中（無し）

序下

【序】

曹劉沈謝之詩、非不工也。如刻繪染穀。可施之貴介公子。而不可用之黎庶。

曹・劉・沈・謝が詩は、工みならざるには非ざるなり。刻繪・染穀の如し。之を貴介の公子に施すべし。而も之を黎庶に用ゐるべからず。

07ウ09 劉繪^{（註）}言其體不完全而失正也。帛カトリト云。本邦云キレ。々々ハ錦ナリトモナニカセン。

（注）写本「刻繪」

【序】

雖然論畫者、可以形似。

然りと雖も畫を論ずる者は、形の似たるを以てすべし。

22ウ09 凡畫工之以焦木先畫其形。是爲形似也。シタ畫ト云也。

卷一上

【古詩二首上蘇子瞻】第二首

人言可醫國 人は言ふ、國を醫すべしと。

何用太早計 何ぞ用あん、太早計なることを。

34才08 大早計ハ本邦諺云アタラヌサキノハツタリ也。

【次韻王稚川客舍二首】第二首

慈母每占烏鵲喜 慈母は毎に占ふ、烏鵲の喜び。

家人應賦屢屢歌 家人は屢屢歌を賦すべし。

40ウ16 蔡邕月令章句云、鍵関牡也。所以止扉。又云屢屢門牡也。本邦云ソロ、^{（註）}。

（注）写本「クロ、」

【王稚川既得官都下有所盼夫歸予戲作林夫人欸乃歌二章與之竹枝歌本出三巴其流在湖湘耳欸乃湖南歌也】第

一首

花上盈盈人不歸 花上盈盈として人歸らず。

棗下纂纂實已垂 棗下纂纂として實已に垂る。

臘雪在時聽馬嘶 臘雪在る時馬の嘶くを聴く。

長安城中花片飛 長安城中花片飛ぶ。

43ウ10 其一云、第一句指所盼之人。ツラニクノ稚川ヤ…吁コモチガハハトナル…其二云、第一句如前義也。如花之人ミトレテ不帰。第二句言如花之人已誕稚川之小子。ガイ／＼トナクヲ如棗結子…第四句言彼如花之人亦コモチガハハニナラ顔色花衰而憔悴其寵豈如前乎。然則稚川之帰期企以待焉。

【王稚川既得官都下…（同前）】第二首

従師學道魚千里 師に従ひて道を學ぶこと魚の千里。

蓋世成功黍一炊 世を蓋つて功を成すも黍の一炊。

日日倚門人不見 日日門に倚れども人見えず。

看盡林鳥反哺兒 看盡くす、林鳥反哺の兒。

45才04 大方殿モカヤウニヲボシメシゾスルラメ。アラツラニ

クノ稚川や。

巻一下

【秋思寄子由】

黃落山川知晚秋

黃落せる山川晚秋知る。

小蟲催女獻功裘

小蟲女を催して功裘を獻らしむ。

老松閱世卧雲壑

老松世を閱べて雲壑に臥す。

挽著滄江無萬牛

滄江に挽著するに萬牛無し。

09ウ03 サリトモト思フ心モ虫ノネモヨワリハテタル秋ノクレ
カナ。前輩引此歌而合此篇。

【演雅】

百足馬蚊憐驚跛

百足の馬蚊は驚の跛たるを憐れむ。

21才14 蚊ムカデ。

【演雅（同前）】

老蚌胎中珠是賊

老蚌胎中に珠は是れ賊、

醢雞瓮裏天幾大

醢雞瓮裏天幾ばくか大なる。

21ウ14 老蚌ハマグリ、醢雞スツボムシ。

【演雅（同前）】

江南野水碧於天

江南の野水天よりも碧なり。

中有白鷗閑似我

中に白鷗有り、閑我に似たり。

23才05 閑似我 此点上古之說、大倉之紅腐也。フルクサキ
意也。

（注）写本「閑似我」

【戲和答禽語】

南村北村雨一犁

南村・北村 雨一犁。

新婦餉姑翁哺兒

新婦は姑に餉し、翁は兒に哺す。

田中啼鳥自四時

田中の啼鳥自ら四時。

催人脱袴着新衣

人を催し袴を脱して新衣を着けしむ。

着新替舊亦不惡

新しきを着け舊を替ふことは亦惡しからず。

24ウ03 去年租重無袴着 去年租重くして袴の着くる無し。
新婦ヲバハナヨメト云。

【平陰張澄居士隱處三詩】「仁亭」

養生息天黥

生を養ひて天黥を息め、

藪木印歲寒

木を藪ゑて歲寒を印す。

28ウ06 天字或ハヒタイキルトヨム。

巻二上

【寄裴仲謨】

交游二十年 交游二十年、

義等親骨肉

義は親の骨肉に等し。

風雨漂我巢

風雨我巢を漂はす。

公亦未有屋

公亦未だ屋有らず。

寄聲來問安

聲を寄せ來て安を問ふ。

足音到空谷

足音空谷に到る。

我家輦轂下

我が家輦轂の下、

薪桂炊白玉

桂を薪にして白玉を炊く。

在官與影俱 官に在て影と俱なり。

衣綻髮曲局 衣綻んで髮曲局。

天機行日月 天機日月を行す。

春事勤草木 春事草木を勤む。

念公篤行李 念ふ、公の行李を篤くして

野飯中道宿 野飯して中道に宿せんことを。

驚沙卷旂旗 驚沙旂旗を卷ぎ、

烏尾城角謾 烏尾城角に謾つ。

騷騷家治具 騷騷と家の治具せん。

夫子且歸沐 夫子且つ歸沐す。

作書寄後乘 書を作て後乘に寄す。

爲我遣臣僕 我が爲に臣僕を遣はせ。

起居太夫人 太夫人を起居し、

并問相與睦 并せて相と睦とに問ふ。

05ウ13 山谷詩ノカシラガキニ、或有改第字作年字不審甚不可也。^(注)

(注) この条、写本に無し。

【神宗皇帝挽詞三首】第三首

河洛功無憾 河洛の功憾むること無し。

幽燕策未收 幽燕の策のみして未だ收まらず。

〔…嘗有收復幽燕之謀既開端緒而未收功也…〕…嘗て

幽燕を收復する謀有り。既に端緒を開く。而るに未だ功を収

めざるなり。…

17ウ15 注云、端緒トハクワタテノ義也。

【以小團龍及半挺贈無咎并詩】

城南窮巷有佳人 城南の窮巷に佳人有り。

不索賁郎常晏食 賁郎を索めず常に晏^{ヒヤ}て食す。

29ウ10 此一聯有戲意、不獨稱妍爲佳人、其才德美者稱之。晁

雖云未索檳榔、無晨炊之故晚食。セメテ此人ニ茶ヲナリトモマ

イセテ。

【以小團龍及半挺贈無咎并詩（同前）】

上有龍文下碁局 上に龍文有り、下は碁局。

探囊贈君諾已宿 囊を探りて君に贈る。諾已に宿^{あひだめ}す

〔碁局謂團茶。下隱々有此文。蓋篋痕也。莊子曰、肱

篋探橐、此借用其字。魯論曰、子路无宿諾〕碁局とは

團茶を謂ふ。下に隱々として此文有り。蓋し篋痕なり。莊子

曰、篋を肱き橐を探る、此れ其の字を借用す。魯論曰、子路

宿^{あひだめ}諾すること無し。

30才10 注 蓋篋―音蔑、韻會云今蜀及閩中亦謂竹篋、爲蔓書云、布重篋席云云。竹ヲ細ニ裂テ方クミタル^(注) 物歟。

(注) 写本「方ニクミタル」

卷二下（無し）

卷三上

【有惠江南帳中香者戲答六言二句】

螺甲割崑崙耳 螺甲は崑崙の耳を割き、

香材屑鷓鴣斑 香材は鷓鴣の斑を屑にす。

05才02 諸抄ニハ螺甲ノ崑崙人ノ耳ノ如クナルヲカラスガイト

云ヘドモ、以本草考之則カラスガイニワアラズ。故録此圖及本草。蓋爲後人之子細着眼也。

09ウ15 螺甲ハカラスガイ也。

10才07 某謂、大本本草廿二有螺甲圖。カラスガイニワ不似也。

【有聞帳中香以爲熬蝸者戲用前韻】第二首

却知麝要防閑 却つて知る、麝の防閑を要すること。

〔南史、范曄字蔚宗、撰和香方、序曰、麝本多忌。過

分必害。…〕南史に、范曄字は蔚宗、和香の方を撰する序に曰く、麝は本多きは忌む。分に過ぐれば必ず害あり。…

14才11 注云多忌 ウツリガノスルヲ云也。

【謝公擇舅分賜茶三首】第二首

乞與降魔大圓鏡 降魔の大圓鏡を乞與して、

眞成破柱作驚雷 眞成に柱を破りて驚雷を作す。

16才06 眞成ハマメヤカ也。

【送碧香酒用子瞻韻戲贈鄭彦能】

食貧好酒嘗自嘲 食貧しうして酒を好んで嘗て自ら嘲る。

日給上尊無骨相 日に上尊を給すること骨相無し。

18ウ03 無食好飲可自嘲。況上樽哉。何由得之。骨相、一云ナリカヘリ也。一云アテガイ也。

【送碧香酒用子瞻韻戲贈鄭彦能（同前）】

銀杯同色試一傾 銀杯色を同じくして試みに一たび傾けば、

排遣春寒出帷帳 春寒を排遣して帷帳を出さん。

19ウ01 排遣ハラシノクル義也。

【次韻子瞻贈王定國】

風姿極灑落 風姿灑落を極めて、

雲氣畫疊樽 雲氣疊樽に畫く。

29ウ11 此一聯言風姿極洒落ナレドモ、爲世模範タランコトハ如雲氣畫疊樽。所謂其實不銜飾也。

卷三下（無し）

卷四上

【奉和文潜贈無咎篇末多以見及以既見君子云胡不喜爲韻】第一首

龜以靈故焦 龜は靈あるを以て故に焦がさる。

雉以文故翳 雉は文あるを以て故に翳せらる。

〔…潘安仁射雉賦序曰、習媒翳之事。李善注曰、翳者所隱以射者也〕…潘安仁が射雉賦の序に曰く、媒翳の事を習ふ。李善注に曰く、翳は隠れて以て射る所の者なり。

04才04 マブシニセラル、カクシニセラル。此二点其義同謂

隱射也。

【奉和文潜贈無咎…（同前）】第六首

雖肥如瓠壺 肥えて瓠壺の如しと雖も、

胷中殊不飽 胷中殊に飽ならず。

12才04 瓠ハユウガフ。其形有圓有長。此句指其圓肥也。

（注）写本「瓠ハユウガフ。其形有長」

【和邢敦夫秋懷十首】第一首

相戒趣女功 相ひ戒めて女功を趣にす。

莎蟲能表微 莎蟲能く微を表す。

21才15 此一聯受第二并第四。言秋涼次第襲來、不可無其備也。

熙豐黨モノワカニカクノ如クナレドモ、元祐ノ老成モ參暇ノ次ニ請暇セヨノ理アラン。

卷四下

【送顧子敦赴河東三首】第一首

紫參可掘宜包貢 紫參掘るべし、宜しく包貢すべし。

27ウ07 人參ヲバ紫團參ト号。ソウジテ又彼紫參ヲバ紫團參トハ不号也。團ノ一字ニヨリテ格別也。

(注) 写本「紫參トハ不号也」

卷五上

【次韻子瞻武昌西山】

山川悠遠莫浪許 山川は悠遠なり。浪りに許すこと莫し。

富貴崢嶸今鼎來 富貴崢嶸として今鼎に來る。

30才11 江西云、言雖可再來不可遂今歸來在朝也。注コ、ロホドコ、ロマヨフスコ、ロナシコ、ロニコ、ロコ、ロユルスナ。莫浪許三字其義同。

卷五下

【柳閑展如蘇子瞻甥也其才德甚美有意於學故以桃李不言下自成蹊八字作詩贈之】第二首

浮陽愧嘉魚 浮陽嘉魚を愧づ。

03ウ03 注浮陽ハメ、ザコ。

【戲詠蠟梅二首】題

〔…賣高州家有灌叢。能香一園也…〕…賣高州が家に灌叢有り。能く一園を香しくす。…

15ウ05 灌叢一賣高州不知爲何人也。灌毛韻叢木也。灌叢一ムラノ義也。蠟梅一ムラアリ、其園中ヲカウバシクスル也。

【戲詠蠟梅二首（同前）】第一首

金蓓鎖春寒 金蓓春寒を鎖す。

惱人香未展 人を惱まして香未だ展ひず。

〔集韻曰、蓓蕾始華也…〕集韻曰く、蓓蕾は始て華さくなり。…

15ウ09 金蓓ハ花之ツボミ。

16才05 註 蓓蕾花之ツボミ。

【賈天錫惠寶薰乞詩予以兵衛森畫戟燕寢凝清香十字作詩報之】第三首

石蜜化螺甲 石蜜螺甲を化す。

槁檀煮水沈 槁檀水沈を煮る。

博山孤煙起 博山孤煙起る。

對此作森森 此に對して森森を作す。

〔山谷有此十詩跋云、賈天錫意和香。其法、研沈水如小棹投、取槁檀液。漬之三日、乃煮去其液。溫水浴之。螺甲磨去齟齬、以胡麻膏熬之。…〕山谷此の十詩の跋有

りて云ふ、賈天錫が意は香に和す。其の法、沈水に研つて小樽投の如にして、檳櫨の液を取る。之を漬すこと三日にして、乃ち煮て其の液を去る。水を温めて之を沐ふ。螺甲は齟齬を磨去て、胡麻の膏を以て之を熬る。…

22ウ01 小樽投バクチザイ也。檳櫨ハナシノ類也。齟齬―螺甲有高低之处、謂之齟齬。蓋ウワカワノイラ、ノアルヲ云。

卷六上

【子瞻以子夏丘明見戲聊復戲答】

請天還我讀書眼 天に請ふ、我に書を讀む眼を選せ。

願載軒轅訖鼎湖 願はくは軒轅を載せて鼎湖に訖へん

〔…軒轅謂神宗。時山谷修實錄…〕…軒轅は神宗を謂ふ。時に山谷實錄を修す。…

33才12 墨点義、神宗實錄平生載崩御コトマデヲ記之訖。鼎湖指崩御。訖記⑤ ヲワラムト云義也。朱点議、訖字指神宗之崩。

〔注 写本「訖トハ」〕

【謝黃從善司業寄惠山泉】

錫谷寒泉攜石俱 錫谷の寒泉、攜石と俱にす。

并得新詩蠶尾書 并せて新詩蠶尾の書を得たり。

45才03 有或説云、井字係新詩與蠶尾書。蠶尾書結如蠶尾之曲。タマツサ・ヒネリブミ等類也。如樵雲解、詩蠶尾様子カク也。

【見諸人唱和醢醢詩輒次韻戲詠】題

48才03 醢醢和名ハヤマブキ也。

【見諸人唱和醢醢詩輒次韻戲詠（同前）】

梅殘紅藥遲 梅残りて紅藥遲し。

此物共春歸 此の物春と共に歸る。

48才17 又本邦歌云、梅ハトビ櫻ハマダシナカタヘテ花ナメツラシキノフキヨフカナ。意尤相類。

卷六下

【陳留市隱】

市井懷珠玉 市井に珠玉を懷く。

往來人未逢 往來すれども人未だ逢はず。

乘肩嬌小女 肩に乗る嬌小女、

邂逅此生同 邂逅に此の生同じ。

03ウ04 嬌字ハアマヤカスト訓也。又態也。又妖嬌也。

【劉晦叔許洮河綠石研】

久聞岷石鴨頭綠 久しく聞く、岷石鴨頭の緑なることを。

可磨桂溪龍文刀 桂溪龍文の刀を磨くべし。

莫嫌文吏不知武 嫌ふこと莫かれ、文吏の武を知らざることを。

要試飽霜秋兔毫 霜に飽くる秋兔毫を試みることを要す。

09ウ09 某謂、典論云魏太子丕造百辟露陌刀。一長三尺二寸、重二斤二兩、狀似竜文。名曰竜鱗。又詳見太平御覽第三百四十六卷劍刀部下。蓋本邦所謂スナガシト云モノ歟。前二説又典論一説、以上三義孰無害也。雖然典論説爲長。鬼神タユウ波ノヒララトガンヨリモ筆鋒利ニシテ尖ナルヲ試ハ石ニ手ゴタヘスベシ。

【謝王仲至惠洮州礪石黃玉印材】

洮礪發劔虹貫日 洮礪は劔を發して虹日を貫く。

印章不瑑色蒸栗 印章は瑑せずとも色栗を蒸す。

14ウ03 注去声亦有瑑字、柱傳切、瑑圭壁上起文也。本邦ノヤスリメ歟。

【次韻寄晁以道】

良爲鼻祖來 良に鼻祖の爲に來れるか。

渠伊爲伴侶 渠伊伴侶を爲す。

〔楞伽經偈曰、心如工技兒、意如和技者。五識爲伴侶、妄想觀技衆。…〕：楞伽經偈に曰く、心は工技兒の如く、

意は和技者の如し。五識伴侶たり。妄想は技衆を觀ず。：

31才01 工技兒トハサルガクノタユウ也。和技ーハヤシテ并キヤウゲン也。觀技ー見物者也。

【次以道韻寄范子夷子默】

持論不鏑除 持論鏑除せず、

奉身謝誇詡 身を奉じて誇詡を謝す。

33ウ12 某謂大小板顛倒、作持論不根故引本傳質之。漢書義ヨリキマル意也^{〔註〕}。

〔註〕 写本「漢書義ヨリキナル意也」

【僧景宣相訪寄法王航禪師】

忽憶頭陀雲外人 忽ち頭陀雲外の人を憶ふ。

閉門作夏與僧過 門を閉ちて夏を作て僧と過す。

〔文選王簡棲有頭陀寺碑。李善注云、頭陀斗菽也。言

斗菽煩惱也。前人詩云、頭陀雲外僧氣多。圖覺經曰、

若經夏者三月安居〕文選王簡棲頭陀寺の碑有り。李善注云、

頭陀は斗菽なり。言は煩惱を斗菽するぞ。前人の詩に云、頭

陀雲外僧氣多し。圖覺經曰、夏者を経て三月安居するが若し。

36才14 註斗菽ー斗菽ハ米水ニテ洗、ソレヲ漉ス器也。本邦ノ

イカキ也。煩惱水比佛性未比末留メテ^{〔註〕}水ヲ漉シスツ、是煩

惱ヲ斷也。故爲沙門之捻号。翻譯名議集有斗菽注。

〔註〕 写本「煩惱ヲ、水ニ比シ、佛性ヲ、米ニ、比ス、米ヲ留メテ」

【次韻張昌言給事喜雨】

垓漂戰蟻餘追北 垓、戰蟻に漂はして追北を餘し、

柱擊乖龍有裂文 柱、乖龍を撃つて裂文有り

49ウ13 垓即アリヅカ也。柱乖竜ノ雷神ヲソレテカクレイル

処也。

卷七上

【詠李伯時摹韓幹三馬次蘇子由韻兼寄李德素】

吾嘗觀覽在垓馬 吾嘗て垓に在る馬を觀覽するに、

驚駘成列無權奇 驚駘列を成して權奇無し。

15ウ02 垓ハマキ也。本邦牧字訓マキト^{〔註〕}。

〔註〕 この条、写本と同じ。

【詠李伯時摹韓幹三馬次蘇子由韻（同前）】

千金市骨今何有 千金骨を市ふ、今何にか有る。

土或不價五殺皮 土或いは五殺皮をしても價ひせず。

16ウ17 百里奚者賢才也。楚王アムダラウニテ五羊皮ニカウ。

【次韻子瞻和子由觀韓幹馬因論伯時畫天馬】

于闐花驄龍八尺 于闐の花驄龍八尺、

看雲不受絡頭絲 雲を見て絡頭絲を受けず。

18ウ09 花驄或云、桃花馬、サメ馬也。或云、葦毛馬也。西域所献也。

【次韻子瞻和子由觀韓幹馬…（同前）】

一日真龍入圖畫 一日真龍圖畫に入る。

在垆羣雄望風雌 垆に在る羣雄風を望みて雌なり。

20才10 言彼三馬皆是真龍、一旦入繪事、在垆之凡馬、悉望其風而爲雌也。比此三馬則餘凡馬皆是ダムマノ如也。

【次韻子瞻和子由觀韓幹馬…（同前）】

李侯論幹獨不爾 李侯の幹を論ずること獨り爾らず。

妙畫骨相遺毛皮 妙に骨相を畫きて毛皮を遺る。

〔晉書王獻之傳、謝安問君書何如君家尊…〕晉書王獻之傳に、謝安問ふ、君の書何くんぞ君が家の尊に如かん。：

20ウ16 註家尊―家尊トハ指義之。

【子瞻去歲春侍立邇英子由秋冬間相繼入侍作詩各述所懷予亦次韻四首】題

〔仁宗乾興初、日御殿之西廡。詔孫奭馮元等、勸講祖宗故事、以双日延見儒臣。至此、雖隻日、亦令執經入侍…〕仁宗乾興初、日に殿の西廡に御す。孫奭・馮元等に

詔して、祖宗の故事を勸講せよと。双日を以て儒臣を延見す。此に至つて、隻日たりと雖も、亦た經を執りて入りて侍せしむ。：

26才05 双日ト云ハ、二日四日六日八日十日是也。隻日ト云ハ、一日三日五日七日九日是也。

【子瞻去歲…（同前）】第一首

赤壁歸來入紫清 赤壁より歸り來て紫清に入る。

堂堂心在鬢彫零 堂堂として心在りて鬢彫零す。

27ウ05 今東坡五十二歳、雖髮已彫零、致君於爲之其本心。尚是堂々不屈也。シカレドモ年老筆セルニヨリテ思フニカイナシト東坡殿ヲボシメスラメ。紫清指朝廷也。

【子瞻去歲…（同前）】第三首

對掌絲綸罷記言 對して絲綸を掌りて言を記することを罷む。

29ウ11 罷記言三字、言東坡自起居之官、迁中書舍人。子由亦自起居之官、迁中書舍人、故罷記言ト云也。天社注云、右史左史也。

〔注〕この条、写本「罷記言三字、言東坡爲起居之官、子由亦爲起居官。天社注云、右史左史也。」

【再次韻四首】第二首

殿上給扶鳴漢履 殿上に扶けを給つて漢履を鳴らし、螭頭簪見秦冠 螭頭に簪を簪にして秦冠を見る。

31ウ16 言殿上給扶、鳴漢朝之履、老成人之中ニ毛螭頭簪筆着

秦朝之冠。左史右史之官ヲ見ルニモ東坡兄弟ホドノ人品ハナシ。
此一聯若細不着眼、則入邪路矣。

【題郭熙山水扇】

一段風煙且千里 一段の風煙且つ千里、
解如明月逐人行 明月の人を逐つて行くが如きなることを解す。

(…西都賦、閭閻且千里…)…西都賦に、閭閻のさと且つ千里…

40才07 閭閻且千トチ、バカリナリ(注)。

(注) 写本「閭閻リョウエツ且千チ」

【題鄭防畫夾五首】第一首

惠崇煙雨歸鴈 惠崇が煙雨の歸鴈、
坐我瀟湘洞庭 我を瀟湘洞庭に坐しむ。
欲喚扁舟歸去 扁舟を喚びて歸り去らんと欲すれば、
故人言是丹青 故人は是れ丹青なりと言ふ。

42ウ05 サナガラ是丹青也。始末共爲真境致也。如舊說丹青アルトアラワシテ無滋味。

卷七下

【小鴨】

小鴨看從筆下生 小鴨筆下より生ずるを看る。
幻法生機全得妙 幻法生機全く妙を得たり。

09ウ10 畫師描小鴨ミス、從筆下、幼出其形。實具生機似非畫圖也。

【題劉將軍鴈】第一首

滕王蛺蝶雙穿花 勝王の蛺蝶双びて花を穿つ。
東丹胡馬耙胡沙 東丹の胡馬胡沙を耙く。
12才03 歎普門普閔二切、歎氣也。通作噴。鼓鼻也。沙中二鼻アラシヲ吹。

【題劉將軍鴈】

箭羽不霑春水 箭羽春水に霑はず。
籀文時印平沙 籀文時に平沙に印す。
13ウ07 蓋第一句、舉其羽毛而已。箭字ハハケツイデ也。

【次韻子瞻題無咎所得與可竹二首粥字韻戲嘲無咎人字韻詠竹】第一首

十字供籠餅 十字籠餅を供す。
一水試茗粥 一水茗粥を試む。
19ウ05 ズツナシノクセニテ、マラウドタケイ者也。

【次韻子瞻題無咎所得與可竹二首…(同前)】第一首

舍前粲戎葵 舍前には戎葵粲たり。
舍後荒苜蓿 舍後には苜蓿荒る。
20ウ04 其貧困如是、而カラモノスキワシヨフカナト云心也。
此一聯ハスツカワイタル體ヲ云。

【奉同子瞻韻寄定國】

風雲開古鏡 風雲古鏡を開く。

淮海熨冰紉 淮海冰紉を熨す。

25ウ13 熨トハシメシヲ置キ、火ヲ以テノシヲカクルヲ云也。

【次韻錢穆父贈松扇】

可憐遠度幘溝婁 憐れむべし、遠く幘溝婁を度つて、
適堪今時樵穢子 適^{たまたま}今時の樵穢子に堪たることを。

38ウ16 言以此松扇今時炎熱ノアツクラウシキヲハライノクベシ。

【次韻錢穆父贈松扇（同前）】

合得安期不死藥 安期が不死の藥を得、

使我蟬蛻塵埃間 我をして塵埃の間を蟬蛻せしむべし。

39ウ03 某謂豫章文集合字作應字。孰^⑤翫吟之則合字爲優。
言錢定合得彼不死藥 何爲我不分贈耶。蓋ホリ句也。

〔注〕写本「熟」

【戲和文潛謝穆父松扇】

持贈小君聊一笑 持して小君に贈らば聊か一笑せん。

不須射雉穀黃間 須めず、雉を射ちて黃間を數^はることを。

41ウ08 同床夜話アツクラウシカラン時、此スベシキ扇ヲ文潛
其夫人ニツカワセバ必可飲也。冬コソアレ、夏ハイカナル私語
ノ時モアツクラウシキ者也。況文潛太肥滿、其夫人アツクラウ
シカランコトハ推量マウス。

42才11 本邦ナガラノ橋ニ用人柱。其人ノムスメノ歌云、モノ
イエバチハワナガラノハシバシラナカズハキジモイラレザラマ
シ。

卷八上

【次韻柳通叟寄王文通】題

12ウ02 文通ガタメノ勸進帳ゾ。

【次韻柳通叟寄王文通（同前）】

寄語諸公肯蒞^⑥ 語を寄す、諸公肯へて蒞^⑥して、
割雞令得近鄉關 雞を割いて郷關に近づくことを得しめよ。

14ウ03 割雞令得近鄉關、此点可也。タトイ令宰ホドノ官ナリ
トモ近郷可便。

【送張天覺得登字】

湖海尚豪氣 湖海尚ほ豪氣、
有人議陳登 人の陳登に議る有りて：

20才12 言商英滿身之膽、豪氣不除。故其外相、雖爲雲水僧、
其臆裏之豪雄、實如陳元龍也。ウハツラハ僧ゴノミ、ソコハ豪
氣而已。

【送張天覺得登字（同前）】

公家有間日 公が家に間日有らん。

禪窟問枸燈 禪窟に枸燈を問へ。

21才12 某謂^⑦癡燈便韻也。阿弥陀坊主用フベキ語ナレドモ、山
谷軫ジテ爲向上之香灯也。

【博士王揚休輓密雲龍同事十三人飲之戲作】

王郎坦腹飯床東 王郎坦腹して床東に飯す。

太官分物來婦翁 太官物を分て婦翁より來たす。

24ウ16 坦腹トハ、ハダヌギアヲノキニ臥シテ、腹ノフクレタルヲヲシサスリタルヲ云也。腹、ガフクルレバ、シワモヨラズシテ、坦平々タル也^(注一)。一説云、坦ハ明也。アラスワ^(注二)義也。一云、坦ハ平^(注三)夷也。此茶ハ天子ノ御膳ヲ司ル太官ノ方ヨリ王揚休ガ舅方ヘ引物二分ツ故云分物。此二字ヲパスグニ讀ベシ。舅トハ妻之父也。ソノ舅ノ方ヨリ贈王揚休。此茶重々ニヲクリモテクル。官茶ノ重宝ナル故也。

(注一) 写本「ガフクルレバ、シワモヨラズシテ、坦平々タル也」

は「夷也」の直後にあり。ただし「ガ」は無し。

(注二) 写本「アラワス」

(注三) 写本「玉」

【戲答陳元興】

但憂迎笑花枝紅 但だ憂ふ、迎へ笑つて花枝の紅きことを。

夜聽冷雨打斜風 夜聽の冷雨斜風打つ。

秋衣沈水換薰籠 秋衣沈水薰籠を換へん。

〔太白詩、妾似井底花、開花向君笑。樂天詩、蕭々暗

雨打窗聲。顏師古注、急就章曰、簪一名答、亦以爲薰

籠〕太白詩、妾は井底花に似たり。開花君に向ひて笑ふ。

樂天詩、蕭々たる暗雨窗を打つ聲。顏師古注、急就章に曰く、

簪一には答と名づく。亦以て薰籠と爲す。

36ウ04 言至此境界、則妄心必崩發、而豈得持戒邪。クチキリヤウニ言フタレドモ、山谷亦遂破戒。

某謂五句不及細釋而悟入。注、答音落。フセ籠。見前。

【戲答陳元興（同前）】

銀屏宛轉復宛轉 銀屏宛轉復た宛轉たらば、

意根難拔如薤本 意根拔き難くして薤本の如きならん。

36ウ09 竹骨ホソク張之。屏風ワラ席ノ坐敷ナリトモ、對妻妾則妄習可萌發、況銀屏宛轉トクルリ／＼トタテマワシ、ウス香ヲタイテ其中ニケウガル美人對セバ、イカナル釋迦達磨モ興ヲ發スベシ。

薤、毛晃曰、葦葉似韭、山上有薤、下有金。韓愈詩云、金薤垂琳琅凡草薤類。韭根堅固ニシテトルトキハ必ズ根ヲバ不挽刈取之。又生ジ、又ハ生ジスルモノナリ。故以妄習比薤本也。

【再答元興】

君不能入身帝城結子公 君身を帝城に入れて子公に結ぶこと能はず。

又不能擊強有如諸葛豐 又強を撃つて諸葛豐が如くなること不能はず。

法當憔悴百僚底 法は當に百僚の底に憔悴すべし。

五十天涯一禿翁 五十天涯の一禿翁。

37ウ06 蓋前篇云、鬢髮幸未成老翁、若以五十之禿翁。爲陳元興與前詩不合、故君字改吾字トナシ、此四句ヲ公ニカケテ見也。

37ウ11 前篇髮鬢幸未成老翁云ト云ヘドモ、今已五十之禿翁也。

【再答元興（同前）】

法當憔悴百僚底 法は當に百僚の底に憔悴すべし。

五十天涯一禿翁 五十天涯の一禿翁。

〔晉書石勒載記、勒嘗聞酈食其勸立六國後、大驚曰、

此法當失、何得遂成天下」晉書に石勒載記、勒嘗て酈食其が勸て六國の後を立てよと聞て、大に驚きて曰く、此法當に失すべし。何ぞ遂に天下を成ることを得ん。

39才13 酈食其勸立六國後、張良借漢高食時之前箸、以籌之、若立六國之後、則事紛々生ゼント云也。前箸トハ高祖ノ飯ヲ喫スル時ノ箸也。事急ナルニヨツテモノヲマイルハシヲ借テ、模樣ヲナシテ高祖ニ見セマウス也。

【再答元興（同前）】

男兒邂逅功補袞 男兒邂逅に功袞を補ふ。

鳥倦歸巢葉歸本 鳥は倦みて巢に歸し、葉は本に歸す。

「意謂功名之會時來則偶爲之。初不必經意。至於稅駕之地則不可不早計也」意は、功名の會は、時來て則ち偶たま之を爲すを謂ふ。初めは必ずしも意を経ず。稅駕の地に至れば則ち早に計らざるべからざるなり。…

41ウ06 注 稅駕トハヒツコムベキ好時節ヲ指也。車馬ヨリラルニタトフ也。

【次韻冕仲考進士試卷】

注金無全巧 金を注るに全き巧み無し。

竊發或中鵠 竊かに發して或は鵠に中る。

〔莊子曰、以金注者昏。考工記梓人注曰、鵠所射也、以皮爲之。射義曰、射者各射己之鵠、射中則得爲諸侯〕莊子曰く、金を以て注る者は昏し。考工記に梓人の注に曰く、鵠は射る所なり。皮を以て之を爲る。射義に曰く、射る者各己が鵠を射る。射て中る則んば諸侯と爲ることを得たり。

47才10 雖着精細却見ソコナフコトアリ。或ハ素粧ヘラヘドモ却テ見スマスコトアリ。是亦莊子達生篇之意也。

47ウ15 鵠字訓的マトノコマナコ也。

〔注〕写本「素粧ヘラヘドモ」

卷八下

【王聖美三子補中廣文生】

三級定知魚尾進 三級定て知る、魚尾の進まんことを。

一鳴已作鴈行連 一鳴已に雁行の連なることを作す。

…

歸去雄誇向兒姪 歸り去りて雄誇して兒姪に向かへば、

舍中犢子賸狂顛 舍中の犢子 賸へ狂顛す。

03才11 雁行ハシトくトシテヨシ。犢子ハハネマワリテワルシ。雁行犢子ヲ合テ着眼可矣。

【次韻游景叔聞洮河捷報寄諸將四首】題

07才16 是時游景叔弓箭ヲバトラネドモ、奉行ニ西邊ヘ赴テ、諸將ノヨク戰生擒鬼章コトラ聽テ、歛抃シテ作詩寄劉。

【次韻游景叔聞洮河捷報寄諸將四首（同前）】第一首

千仞溪中石轉雷 千仞の溪中に石雷を轉ず。

漢家萬騎擣虛回 漢家の萬騎虚を擣つて回る。

07ウ13 手ニタツモノナシ。故云、擣虚回ルト。回字凱歌力チドキツクリテカヘルナリ。

【次韻游景叔聞洮河捷報寄諸將四首（同前）】第二首

更向天階舞干羽 更に天階に向かひて干羽を舞はせ、
降書剩破一年遲 降書一年の遅きことを剩破す。

〔…鬼章雖就禽、其子孫部族猶足以陸梁於邊。阿里庫
及溫溪心皆未成順。恐諸將犇勝傲功。故欲以文德來之
也。東坡奏議述其事甚詳…〕…鬼章禽に就くと雖も、其
の子孫部族は猶ほ以て邊に陸梁するに足れり。阿里骨及び溫
溪心は皆未だ成順せず。恐らくは諸將の勝つに犇うて功を傲
まさんことを。故に文德を以て之を来さんと欲するなり。東
坡奏議に其の事を述すること甚だ詳かなり。…

11才03 注 陸梁ハ文選ノカタチ續^注 ニラドルトヨム。イキ
ハタハリタル形ヲ云也。

(注) 写本「カタチ読」

【次韻游景叔聞洮河捷報寄諸將四首 (同前)】第三首

漢得洮州箭有神 漢洮州を得て箭に神有り、

斬關禽敵不逡巡 關を斬り敵を禽^{とり}にして逡巡ならず。

11ウ07 不逡巡三字、言ハアワテザルナリ。シトノトシテ不
容易也。官軍ノ體如此。漢字指宋。

【次韻游景叔聞洮河捷報寄諸將四首 (同前)】第四首

付與山河印如斗 山河を付與して印斗の如し。

忍爲鼠子腹心人 忍びて鼠子腹心の人と爲る。

14ウ15 又一説、鬼章受朝恩而鼠子腹心ノ人トナルニシノビウ
スルコトガクセゴト也。^注

(注) この条、写本に無し。

【次韻崔伯易席上所賦因以贈行二首】第一首

諸郎投賜沐 諸郎賜沐に投ず。

高會惜臨分 高會分かれに臨むことを惜しむ。

19才16 投字カコツクル義也。

【謝景叔惠冬笋雍酥水梨三物】

見他桃李憶故園 他の桃李を見て故園を憶ふ。

嚙猿應殘邊牕竹 嚙猿牕を邊る竹を^こ殘ふべし。

〔…山谷此詩舊本云、惠文綠籜苞一束、園丁破凍取寒
玉…〕…山谷の此の詩の舊本に云く、惠文綠籜一束を苞む。

園丁凍を破りて寒玉を取る。…

33才16 嚙字與饒同字。注云饒也。フタウナル義也。

33ウ13 園丁一謂游景叔之園官サイエムブギヤウ也。蓋指景叔
之家奴。

【次韻幾復和答所寄】

地褊未堪長袖舞 地褊にして未だ長袖の舞に堪へず。

夜寒空對短檠燈 夜寒くして空しく短檠の燈に對す。

37才04 地褊一褊小地四會在不堪長袖舞ゾ。然ドモ未廢學業也
^注。

(注) この条、写本に無し。

【次韻幾復和答所寄 (同前)】

相看鬢髮時窺鏡 鬢髮を相ひ見て時に鏡を窺ふ。

曾共詩書更曲肱 曾て詩書を共にして更に肱を曲ぐ。

作箇生涯終未是 箇の生涯を作すに終に未だ是ならず。

故山松長到天藤 故山の松は到天の藤を長ずらん。

38才04 山谷亦踞踏史官之部、相共是作箇生涯。サシタルコト
モノシ。終不能是矣。…

卷九上

【考試局與孫元忠博士竹間對窗夜聞元忠誦書聲調悲壯
戲作竹枝歌三章和之】題

〔劉禹錫竹枝辭引曰、……有淇澳之艷…〕 劉禹錫竹枝
辭引に曰く、…淇澳の艷有り。…

02ウ17 淇水名。此淇ヲバ嬌奔之義ニトル、非淇澳之章義也。

【題伯時頓塵馬】題

14ウ16 頓都困切。毛晃注云、下首也。頓塵馬トハ馬ノコロビ
ヲウツラ云也。馬ノ頓塵者人之浴スル意也。

【題伯時頓塵馬（同前）】

竹頭搶地風不舉 竹頭地に搶いて風ふけども舉がらず。
文書堆案睡自語 文書案に堆^{うたか}くして睡りて自語す。

〔…元次山寐論曰、寐中寐言非所知也。韻書云、寐睡
語也〕…元次山が寐論に曰く、寐中の寐言は知る所に非ざ
るなり。韻書に云く、寐は睡語なり。

15ウ08 睡自語―ネゴトラスルヲ睡自語スト云也。

16ウ16 寢、牛世反。ネゴト也。^注
(注「ネゴト也」、写本に無し。

首

城南名士遣春來 城南の名士春を遣し來る。

三月乃見臘前梅 三月に乃ち臘前の梅を見る。

定知鎖著江南客 定めて知る、江南の客を鎖著することを。

故放綠陰春晚回 故に綠陰を放し、春晚に回するならん。

33ウ07 江南客指梅、故不云開、而下ノ句ニ回ト云也…才元則
花ヲモ悵氣シテ、ソコツ二人ニ無令見、故情春寒此花ヲ悵囊入
レテ鎖着セシメヒラカシメズ。雖然イツマデ開カセイデヤクベ
キゾデアルホドニ、今綠陰ノ春晚ニユルシテ開カシムル也。ヲ
シケレドモ、山谷方ヘタマワリタトスイリヤウマウス也。有相
戲之義也。朱点。

33ウ17 山谷久在試院、鎖着セラレ、今出試院、回寓居而爲山
谷遲開歟。回字係山谷。花スラ山谷ヲ知り相開クニ、王才元ガ
美妾ノ阿素ハ何事ゾ。不尋來邪。是亦相戲之義也。墨点。

【效王仲至少監詠姚花用其韻四首】第四首

直言紅塵無路入 直に言ふ、紅塵路の入る無しと。
猶傍蜂須蝶翅來 猶ほ蜂須蝶翅に傍つて來る。

〔蓋以戲仲至。老杜詩、花藥上蜂須。又詩、塵沙傍蜂
蠶〕蓋し以て仲至に戲れけらし。老杜が詩に、花藥蜂蠶に
上る。又詩に、塵沙蜂蠶に傍ふ。

43ウ12 注 蓋以―王仲至其家妾ヲ悵囊入テヲイタホドニ、山
谷戲作此詩言之也。

【寄杜家父二首】第一首

閑情欲被春將去 閑情春に將^も去られんと欲すれば、

鳥喚花驚只麼回 鳥喚び花驚きて只麼に回る。

44ウ10 本邦諺云、狂人走非狂人走也。山谷與彼看花春遊之人、被春風牽去。其意欲飄蕩、然被鳥喚老狂、被花驚老狂。其被春風牽去之意トツテ回ス也。

【寄杜家父二首（同前）】第二首

風塵點汗青春面 風塵青春の面を點汗す。

自汲寒泉洗醉紅 自ら寒泉を汲みて醉紅を洗ふ。

徑欲題詩嫌浪許 徑に詩を題して浪りに許さんことを嫌はんと欲すれども、

杜郎覓句有新功 杜郎は句を覓めて新功有ればなり。

45才11 杜郎之所覓山谷之詩、要其斬新之語。フルクサキ詩ヲバイヤト云也。

【謝王舍人剪狀元紅】題

47ウ06 先輩云、本邦歌云、ウラシマガハコネノサクアラシムトモアケテクヤシキ風ヤフカマシ。此篇同意。

【戲答陳季常寄黃州山中連理松枝二首】第二首

金沙灘頭鑲子骨 金沙灘頭の鑲子骨、

不妨隨俗覓嬋娟 妨げず、俗に隨て覓嬋娟たることを。

51才06 季常畏其妍妬之事、道理タミナカ也。以是爲戲也。
(注 写本「連理タナカ」)

【次韻子瞻送李参】

雖然一関有奇偶 然りと雖も一関奇偶有り。

博懸於投不在德 博は投に懸かつて徳に在らず。

(「…法言曰、一関之市必立之平…」…法言に曰く、一関の市にも必ず之を平しきに立つ。…)

56才05 注、平ハ本邦之市ノサカシナリ。

卷九下

【次韻宋懋宗三月十四日到西池都人盛觀翰林公出遨】

金猊繫馬曉鶯邊 金猊馬を繫く、曉鶯の邊。

不比春江上水船 春江上水の船に比せず。

02才01 金猊ハクラヲ、イ。ハリクラト云ハ非也。

【次韻宋懋宗三月十四日到西池…（同前）】

還作遨頭驚俗眼 還た遨頭と作つて俗眼を驚かす。

風流文物屬蘇仙 風流の文物蘇仙に屬す。

05才07 還字訓却、非來帰之義也。ナントシテノ意也。
(注 写本「ナントシテモ」)

【聽宋宗儒摘阮歌】

貌如千歲枯松枝 貌は千歳の枯松の枝の如し。

落魄酒中無定止 酒中に落魄として定止無し。

26才10 落魄ハヲチブレタル兒也……注又ハウタウタル兒ヲ落魄ト云也。

【自門下後省歸卧酺池寺觀盧鴻草堂圖】

黃塵逆帽馬辟易 黃塵帽を逆へて馬も辟易す。

歸來下簾卧書空 歸り來りて簾を下ろして卧して空に書す。

31ウ02 々々(＝辟易)二字、馬ノソバヘナギレトビマワル
兒也。

【題子瞻枯木】

折衝儒墨陣堂々 衝を儒墨に折きて陣堂々たり。

書入顔楊鴻鴈行 書は顔・楊が鴻鴈の行に入る。

38才13 東坡之文章大才、於儒者亦無敵、於墨者亦無敵。東坡
一人之陣、堂々不可得近之。折衝トハアタルカタキモナシト云
義也。

38ウ03 叢林ノ諺云、テガキシヤヲミヤウ(註)ト。是レハホル
ルヤウニ似タレドモ、イタヅラモノ、スルワザナリ。手ハスリ
コギナリトモ、音ツチクレ鳩ナリトモ、學問稽古コソアリガタ
ケレ。

(註) 写本「シヤウミヤウ」

卷十上

【次韻答曹子方雜言】

酺池寺湯餅一齋盂 酺池寺の湯餅一齋盂、

曲肱懶著書 肱を曲げて書を著すに懶し。

04才12 湯餅或云餠(註) 餠。注本邦之ウドン。

(註) 写本「餠」に傍記「饅飩」。

【次韻答曹子方雜言(同前)】

往時盡醉冷卿酒 往時醉を盡くす冷卿が酒。

侍兒琵琶春風手 侍兒の琵琶春風の手。

05才13 盡醉十分醉也。注杜詩云、毎日江頭盡醉帰云云。トロ

リト醉也。

【次韻答曹子方雜言(同前)】

當年聞說冷卿客 當年あふみ聞き説く冷卿が客、

黃須鄴下曹將軍 黃須なり、鄴下の曹將軍。

06ウ17 曹將軍トハ、指任城威王曹彰。

【次韻子瞻和王子立風雨敗書屋有感】

婦翁不可撓 婦翁ふろう撓なぐさつべからず。

王郎非嬌客 王郎は嬌客に非ず。

(…按今俗間以墻爲嬌客) …按ずるに今の俗間に墻を以
て嬌客と爲す。

10才05 本邦所謂之諺云、婿モ舅モモロハチ是也……嬌客トハ、
ズレメイテ、ビムシヤムトスル者ヲ云。嬌燕、嬌鶯等嬌亦其義
同矣。

【次韻子瞻和王子立風雨敗書屋有感(同前)】

燕雀蚩鴻漸 燕雀は鴻の漸すすむを蚩あはり、

犬羊睨麟獲 犬羊は麟の獲とるるを睨ながめにす。

(…春秋哀公十四年、西狩獲麟) …春秋哀公十四年、西
のかた狩して麟を獲たり。

13ウ12 注春秋左氏傳經ハコ、マデナリ。傳ハ哀公二十七年マ
デナリ。

【次韻子瞻和王子立風雨敗書屋有感(同前)】

俗情傲秦贅 俗情は秦贅に傲す。

婦舎不煖席 婦舎も席を煖めず。

〔漢書賈誼傳曰、秦人家貧子壯則出贅。老杜詩、倚著如秦贅。淮南子曰、墨突不暇黔、孔席不及煖〕漢書賈誼傳に曰く、秦人家貧にして子壯なる則んば出て贅す。老杜詩に倚著して秦贅の如し。淮南子に曰く、墨突黔すに暇あらず、孔席煖むるに及ばず。

15ウ09 注傲秦贅ムコガヲ、スルヲ云。サルホドニ與婦舎不睦
：贅増トハイリムコ。婿同矣。

16才09 凡男婦家謂之贅増。タトヘバ人ノ身ニフスベ、コブ
ノツクガ如シ。

【次韻子瞻和王子立風雨敗書屋有感（同前）】

南治從東家 南・治、東家に從ふ。

不聞被嘲劇 嘲劇を被ることを聞かず。

16才12 南容、孔子之メイムコ也。公治長、一名芝、孔子之ム
コ也。

【嘲小徳】

欲噴王母惜 噴らんと欲すれば王母惜む。

稍慧女兄誇 稍慧にして女兄誇る。

〔…爾雅、父之妣爲王母…〕…爾雅に、父の妣を王母と爲す。…

25ウ07 此聯山谷相噴ナダムル義也……尔雅—王母トハウバ
也。山谷母李大夫人小徳ガタメニウワバ也。

【嘲小徳（同前）】

解著潛夫論 潛夫論を著すことを解せば、
不妨無外家 外家無きことを妨げず。

26ウ07 々々（Ⅱ外家）トハ母方也。

【戲答張祕監饋羊】

忍令無罪充庖宰 罪無きをして庖宰に充てしむるに忍びんや。
留與兒童駕小車 兒童に留與して小車を駕せしめん。

28ウ11 庖即庖厨也。宰調肉者。或云、俎槩也。マナイタトモ
訓、サクトモ訓、又ハツカサトモ訓ズ。

【戲答王定國題門兩絕句】第一首

非復三三少年日 復た三三少年の日に非ず。

把酒償春煩生紅 酒を把りて春を償ふとも煩に紅を生ぜんや。

〔據言、薛逢語新進士曰、老婆三三五少年時、也曾東塗西抹來、退之嘲少年曰、直把春償酒、都將命乞花…〕

據言に薛逢が新進士に語りて曰く、老婆三三五少年の時、也曾東に塗り西に抹し來る。退之、少年を嘲りて曰く、直ちに春を把りて酒を償ふ。都て命を將て花を乞ふ。…

29ウ15 本邦諺云、アマガ髪モタケニサウシ。

【戲答王定國題門兩絕句（同前）】第一首

白鷗入羣頗相委 白鷗羣に入れども頗る相ひ委す。

不謂驚起來賓鴻 謂はざりき、來賓の鴻を驚起せんとは。

〔莊子曰、入獸不亂群、委謂諳識也…〕莊子に曰く、獸に入りても群を亂さず。委とは諳識するを謂ふなり。…

30ウ04 注 委謂諳識也。蓋委悉之義也。ヨクシリタト云意也。

【戲答王定國題門兩絕句（同前）】第二首

頗知歌舞無竅鑿 頗る歌舞することを知れども竅鑿無し。
我心塊然如帝江 我が心塊然として帝江の如し。

31ウ03 謹白山谷殿道者ノタチカヘリコソコワウサウヘ。

【清人怨戲效徐庾慢體三首】第一首

莫藏春笋手 春笋の手を藏すこと莫かれ。

且爲剥蓮蓬 且つ爲に蓮蓬を剥せよ。

34才06 蓬字草ノ名ナレドモ、イガアル物ヲ蓬ト云。栗棘蓬類
是也。蓮實其末尖而如有刺、故云蓮蓬トカド／＼シキ貌也。此
一聯、言ハ、イクラモ柔輦ナレ、カド／＼シクナアリソノ義。
面白クヨソヘテ云也。

【清人怨戲效徐庾慢體三首（同前）】第二首

翡翠釵梁碧 翡翠釵梁碧なり。

石榴裙摺紅 石榴裙摺紅なり。

〔庾信蕩子賦、珮珠翠的、釵梁栗鈿…〕庾信が蕩子賦
に、珮珠は翠的、釵梁は栗鈿なり。…

34ウ02 叙梁亦其類、釵ノシメ也。

34ウ04 注 蕩子―蕩子トハ商人也。賈人之婦ハ一生ルスニ
イ

〔注〕写本「釵ノシム也」

【清人怨戲效徐庾慢體三首（同前）】第二首

聞道西飛燕 聞くならく西飛の燕、

將隨北固鴻 將に北固の鴻に随はんとす。

〔古樂府曰、東飛伯勞西飛燕、黃姑阿母時相見…〕古
樂府に曰く、東飛の伯勞、西飛の燕、黃姑・阿母・時に相ひ
見る。…

34ウ17 伯勞ムス。黃姑ハ牽牛星也。

【清人怨戲效徐庾慢體三首（同前）】第二首

鴛鴦會獨宿 鴛鴦會獨宿せん。

風雨打船蓬 風雨船蓬を打つ。

〔…杜詩、合歡尚知時、鴛鴦不獨宿〕…老杜詩に、合
歡だも尚ほ時を知る。鴛鴦は獨宿せず。

35才05 本邦之貞女、想其夫之行、歌云、風吹ヲキツ白波タツ
タ山夜半ニヤ君獨行ラム。貞女ハ伊勢ト云美人、伊勢モノ
ガタリノ伊勢也。夫ハ成平ノタツタヘカヨウル、時、其路ガウ
ダフ多シ。白波トハガウダフ、ヌス人ヲ云。伊勢ソレヲカナシ
ミテヨメル歌也。

35ウ08 陳后山詩云、探囊一試合昏湯。本邦所謂ネムノ木也。

〔注〕写本「君独行ラム」

卷十下

【戲答俞清老道人寒夜三首（同前）】第一首

馬嘶車鐸鳴 馬嘶いて車鐸鳴る。

羣動不遑安 羣動 遑 安からず。

06ウ02 此一聯舉紛鬧之境、京師車塵馬足之羣動、最可厭之地、
清老持佛堂房主ニシクタビレテ、却甘此紛々鬧々之境。蓋見坐
寂寥之境故也。

【戲答俞清老道人寒夜三首（同前）】 第一首

平明視清鏡 平明に清鏡を視る。

政爾良獨難 政爾として良に獨り難し。

07才04 凡黎明ト云ハ、將明之時。黎明或作犁字。遲明ト云ハ、明ヲ待義也。遲字、去聲。平明ト云ハ、夜アケハナレタル時ヲ云。張祐詩云、平明騎馬入金門。

【東觀讀未見書】

漢規羣玉府 漢羣玉の府に規つて、

東觀近宸居 東觀宸居に近し。

18才12 規トハ地ワリコシラル（註）ヲ云。

（註）写本「コシラユル」

【被褐懷珠玉】

國土懷珠玉 國土にして珠玉を懷くもの、

通津不易扛 通津は扛あげ易からず。

21ウ15 樵云、通津者ヒヤウゴ、アマガサキノ様ナル所モ（註）
此重寶ヲバイダシテ公方ヘマイラセズ。

（註）写本「所ヨリモ」

【被褐懷珠玉（同前）】

彈雀輕千仞 雀を弾じて千仞を輕くせんや。

連城貫一雙 連城一雙を買はん。

23才12 輕千仞（註）、コレハ上古之点也。

（註）写本「輕千仞」

【被褐懷珠玉（同前）】

安知藍縷底 安くんぞ知らん、藍縷の底に、

明月弄寒江 明月寒江を弄すること。

23ウ09 藍縷本邦所謂ツヅメリ也。

【款塞來享】題

（元祐三年、夏人遣使謝封冊。故以命題…）元祐三年、

夏人使ひをして封冊を謝せしむ。故に以て命題す。…

24才16 元祐三年、西夏主乾順遣使謝封冊也。其封國之詔冊也。
本邦所謂ツギメノ御判等は也。

【款塞來享（同前）】

永輪量谷馬 永く谷を量る馬を輪いたす。

不作觸藩羝 藩かきに觸る羝と作らず。

27才05 谷トハ馬ノマキヲ指也。

【次韻答秦少章乞酒】

詩來獻窮狀 詩來りて窮狀を獻す。

水餅嚼冰蔬 水餅冰蔬を嚼む。

37ウ01 本邦野語云、小麵餅之水ツケモコノミ、ゴノミ。以麵麥粉造モノ皆謂之餅也。氷蔬ハ東損（註）之菜蔬也。

（註）写本「凍損」

卷十一上

【願軒詩六首并序】序

蓋三條之中一條曲也。

高君素作頤軒請予賦詩。予爲說其義曰、在易之頤、觀頤。自求口實。其傳曰、觀頤觀其所養也。自求口實觀其自養也。

高君素頤軒を作て予に請て詩を賦せしむ。予爲めに其の義を説て曰く、易の頤に在り、頤^{よしな}ふを觀る。自ら口實を求るぞ。其傳に曰く、頤を觀るとは其の養^{やしな}ふ所を觀るぞ。自ら口實を求るとは其の自ら養^{やしな}ふを觀るぞ。：

04才13 尚書及叢話之所謂口實、其義ハツネド／＼タエズクチズサミニユイ出スヲ爲口實也。易所謂之口實、其義頗異。故并録之。

【頤軒詩六首并序】第五首

樞機要發遲 樞機は發することの遅からんことを要す。

飲食戒味厚 飲食は味の厚きことを戒む。

漁人溺於波 漁人は波に溺れ、

君子溺於口 君子は口に溺る。

〔…此詩旧本云、小人溺於水、君子溺於口。古來犯時機。惟此没梁斗。按秦再思紀異録曰、高駢命酒佐薛濤改一字令。駢曰、口有似没梁斗。濤曰、川有似三條椽〕

：此の詩の旧本に云く、小人は水に溺れ、君子は口に溺る。古來時を犯すこと機ばくぞ。惟だ此れ梁斗を没る。秦再思

が紀異録を按ずるに曰く、高駢酒佐の薛濤に命じて一字を改めて令す。駢が曰く、口は梁斗を没するに似ること有り。濤

が曰く、川は三條椽に似ること有り。

14ウ09 又有一說云、没梁斗トハフチノ離テナキ斗マスヲ云。是亦理通矣。一字令トハ一字之謎語也。一條曲トハ川字或作川。

【記夢】

借問琵琶得聞否 借問す、琵琶聞くことを得んや否やを。

靈君色莊妓揺手 靈君色^{もよせ}莊かにして妓手を揺^{うか}す。

22ウ16 借問二字、文選ニハ借問^{トク}ト二字ヲ一字ニ訓也。

(注) 写本「借問」

【同元明過洪福寺戲題】

春殘已是風和雨 春は殘りて已に是れ風雨に和す。

更着遊人撼落花 更に遊人を着けて花を撼落す。

〔舊本有山谷序云、三月中同呂元明畢公叔至洪福寺。

見元明壁間舊題云、与晋之醉後使騎升木撼花。以爲笑

戲題〕舊本に山谷の序有りて云く、三月の中に呂元明畢公叔と同じく洪福寺に至る。元明が壁間の舊題を見るに云く、

晋之醉後に騎をして木に升せて花を撼かさしむ。以て笑戲

を爲して題すと。

24ウ01 使騎一騎トハ伴ツル、騎馬殿原也。即殿罷羅也。

25ウ15 此未聯、蓋言、殘春無幾、明朝若風雨、則花可落盡也。

トテモノコトニ使騎者之殿罷羅、登木撼花、看如雪而落、爲一場之戲事也。

【戲答晁深道乞消梅二首】題

26ウ13 東都事畧以晁深道、爲晁无咎之從弟。從弟ハイトコ也。

【戲答晁深道乞消梅二首(同前)】第一首

蒸豆作烏塩作白 豆を蒸しては烏と作し、塩は白と作す。
屬聞丹杏薦牙盤 屬聞く、丹杏の牙盤に薦むることを。

〔…盧氏雜説曰、御厨進饌、用九釘食。以牙盤九枚。

裝食味於其間。詩意謂當梅實槁悴失性之時、丹杏方蒙
獻御之寵。…〕：盧氏雜説に曰く、御厨饌を進るに、九釘
の食を用ゆ。牙盤九枚を以てす。食味を其の間に装ふ。詩の
意は梅實の槁悴して性を失するの時に當りて、丹杏方に御に
獻ずるの寵を蒙ることを謂へり。…

28ウ06 九釘食トハ天子不喫御、以九枚之牙盤盛之、具饌。本
邦諸侯往々用此義。裝食味於其間。蓋具食味必不喫之也。梅實
槁悴トハ或烏梅・糖梅等、造之時失梅之本性也。

【次韻子實題少章寄寂齋】

余欲造之深 余れ之に造ることを深からんことを欲す。

抽琴去其軫 琴を抽て其の軫を去く。

〔…韓詩外傳曰、孔子南遊適楚。至於阿谷之隧、有処
子佩璫而浣者。孔子抽琴、去其軫、以授子貢曰、善爲
之辭以觀其語。此借用以明寄寂之意〕：韓詩外傳に曰
く、孔子南に遊んで楚に適く。阿谷の隧に至るに、処子の璫
を佩びて浣ふ者有り。孔子琴を抽んで、其の軫を去けて、
以て子貢に授けて曰く、善く之が爲に辭を以て其の語を觀よ。
此には借り用て以て寄寂の意を明かす。

33ウ05 去其軫抽琴 琴ヲ囊中ヨリトリ出ス義也。去軫之琴ヲ
授子貢、彼處子ヲ試ミント要スル也。善ク爲之辭。以觀其語―
其語トハ指處子之語也。

【次韻孫子實寄少游】

難甘呼尔食 呼尔の食を甘なはんことを難しとして、
聊寄粲然輶 聊か粲然の輶を寄す。

〔孟子曰、噤尔而与之、行道之人弗受。注云、噤尔猶
呼尔。咄啐之兒也。粲然見上注〕孟子曰、噤尔として之
を与ふことは、行道の人だも受けず。注に云く、噤尔は猶
呼尔のごとし。咄啐の兒なり。粲然は上注を見よ。

44才16 其一云、雖見嗟來呼尔之食、外相、則輒然トニコ／＼
トウチ笑テ、恩ヲバハツタトヒカヘテ不受。蓋與士生天地
之一聯相應也。某謂、此説優也。此一聯亦指少游也。

〔注〕写本「内心」

【戲書秦少游壁】題

〔觀此詩意、當是少游過南京有所盼。主翁待少游厚。
欲令從歸而其家難之也。……宋都今南京。宋父指南京
主翁。…〕此の詩の意を觀るに、當に是れ少游南京に過て
盼する所有り。主翁少游を待すること厚し。從歸せしめんと
欲すれども而れども其の家之を難む。…宋都は今南京なり。
宋父とは南京の主翁を指すぞ。…

46ウ15 題注 主翁トハ、所盼之新妾之父ヲ指ス。少游ヲヨク
待也。

47才02 其家難之也。言少游本夫人、難所盼之新妾、其家トハ
指本夫人也。

47才04 文集ニハ作秦氏庭鳥、内集作秦氏鳥生―此注用豫音〔注〕
文集也。

〔注〕写本「豫章」

【戲書秦少游壁（同前）】

微服過宋風退飛 微服して宋に過て風に退飛す。

宋父擁篲待來歸 宋父篲を擁して來り歸るを待つ。

誰饋百牢鸚鵡妃 誰か百牢を饋るに鸚鵡を妃にせん。

〔孟子曰、孔子微服而過宋。…〕孟子に曰く、服を微し
て宋に過る。…

48才07 注 孟子―微服ハ打眠テタチ也。

【戲書秦少游壁（同前）】

憶炊門牡烹伏雌 憶ふ、門牡を炊いで伏雌を烹しことを。

未肯增巢令汝棲 未だ肯て巢を増して汝をして棲ましめず。

50才11 胡爲今移情於新妾、欲棄擲吾邪、ツラニクサヨ。

【戲書秦少游壁（同前）】

莫愁野雉疎家雞 愁ること莫かれ、野雉の家雞を疎んずること
を。

但願主人印纍纍 但願はくは主人の印の纍纍たらんことを。

〔恐以新聞舊也。法書苑云、庾翼字稚恭、善草隸。在

荊州与都下書云、小兒輩乃輕家雞愛野雉。皆孝逸少。

漢書石顯傳、民歌之曰、牢邪、石邪、五鹿客邪、印何

纍纍綬若若邪。注云、纍纍重積也。主人謂少游〕新し

きことを以て舊に間ゆることを恐る。法書苑に云く、庾翼字

は稚恭、草隸を善くす。荊州に在て都下に与ふる書に云く、

小兒の輩乃ち家雞を輕んじて野雉を愛す。皆逸少を孝ぶとい

へり。漢書に石顯が傳に、民之を歌て曰く、牢か、石か、五

鹿の客か、印何ぞ纍纍として綬若若たるか。注に云く、纍纍
は重積なり。主人とは少游を謂ふ。

50ウ05 此一聯、山谷向本夫人ナタムル謂也。野雉指新妾、家

雞指本夫人。言莫愁因有新妾。疎本夫人其待妾之衆多ナルハ士

之常也。ソレニツイテモ但少游殿ガ富貴ニナリテ、印累タト帯

ビンコトヲネガウベシ。富貴ニダニモナラレタラバ妻妾多トモ

各活計至樂之中ニ一生ヲ送ルベシ。天神地祇ニイノリテモタノ

シウナラレヨ。主人トハ指少游也。此以衆禽建立、天社子細註

之。

注、恐以新聞舊、言本夫人因新妾ステラレンコトヲ恐ル。

家雞トハ庾翼自比、野鷲トハ指王逸少也。

【贈秦少儀（同前）】

汝南許文休 汝南の許文休、

馬磨自衣食 馬磨して自ら衣食す。

但聞郡功曹 但聞く、郡の功曹、

滿世名籍籍 世に滿ちて名の籍籍たることを。

〔蜀志許靖字文休、汝南平輿人。少与從弟劭俱知名。而私

情不協、劭爲郡功曹。排擯靖不得齒叙、以馬磨自給。…〕

蜀志に許靖字は文休、汝南平輿人なり。少くして從弟の劭と俱に

名を知らる。而れども私情協はず、劭は郡の功曹と爲る。靖を排

擯して齒叙も得ず、馬磨を以て自ら給す。…

53才13 許文休貧而馬磨之奉行ヲシテ、質朴ニシテ、質ヲ取テ

供衣食也。從弟ハ功曹ノ官ニ成リ聲名早速也。

【贈秦少儀（同前）】

吾蚤知有觀 吾蚤く觀有ることを知る。
而不知有觀 而も觀有ることを知らず。

少儀袖詩來 少儀詩を袖にし來る。

剖蚌珠的礫 蚌を剖いて珠的礫たり。

55ウ08 言山谷蚤知秦少章之才名、而未知秦少儀也。モトヨリ
秦少游殿ノコト (注) ハ中／＼不及論之也。

(注) 写本「トト」

卷十一下

【題淨因壁二首】第一首

暝倚蒲團挂鉢囊 暝に蒲團に倚て鉢囊を挂く。

01ウ01 暝字、兩点外、又訓暝 (注)。々蓋目ラクイフサイデタルミカエシテタル兒也。真箇ネムルニワアラズ。或説云、第一句還家隱坐之義也。此説甚不可矣。

(注) 写本「又訓^{トス}暝^{メダシント}」。また掲出字「暝」左右に「ミヤウシテ」「ネムツテ(朱書)」の二訓を掲げる。

【北窓】

緑陰黃鳥北窓簾 緑陰黃鳥北窓の簾 (たかげう)。

付與來禽安石榴 來禽の安石榴に付與す。

09才17 タノミシ花モ緑陰トナリ、ミカタセシ鶯モハヤ其ノ聲ヲ夏ニ變ズ。北窓ノ簾ニ山谷高臥シテシヅカニキイテ、不及嗟嘆ハヤ來禽ノリムゴモ石榴ノ黨モ、ノ、メキタチテ、次第ニ茂長。々々セバ茂長セヨトウチフテ、イルマデ也。此篇往々有邪説。故子細下嘗而已。

【出城送客過故人東平侯趙景珍墓】

朱顏苦留不肯住 朱顏^{ねいろ}苦に留むれども肯へて住まらず。

白髮政爾欺得人 白髮政爾として人を欺き得たり。

30才05 政尔トハソツトノアイダト云義也。

【黃穎州挽詞三首】第二首

不謂三日別 謂はざりき、三日も別れんとは。

今成萬事空 今萬事空と成らんとす。

35才13 三日別有二説。其一云、不謂只兩三日之別離ナラント
ヲモフタレバ、今已長離別、萬事成空也。

【叔父給事挽詞十首】第九首

除書未試回天筆 除書未だ回天の筆を試さざるに、
何意佳城到馬前 何ぞ意はん、佳城馬前に到らんとは。

50才03 除書則給事中司之除書者、本邦繼林之所謂公文等是也。
奉行飯尾布施等力キアグルモノ也。

【叔父給事挽詞十首(同前)】第十首

榮祿常思澤九宗 榮祿常に思ふ、九宗を澤さんことを。

山摧梁壞併成空 山摧け梁壞れて併せて空と成る。

百年遺恨誰昭洗 百年遺恨誰か昭洗せん。

他日諸郎有父風 他日諸郎父の風有らん。

(…文選謝朓詩、中區咸已泰。輕生諒昭洒。与洗同。

廉之四子、叔豹叔向叔夏叔敖：…文選謝朓が詩に、中區咸^{ちくゑん}くに已に泰し。輕生諒に昭洒せん。洗と同じ。廉が

四子は、叔豹・叔向・叔夏・叔敖。：

50才14 夷仲不成立切名^(注)、而半途俄如斯。其遺恨、縱積百年不可洗盡。然スコシキナグサムコトアルハ、夷仲之四子巍然皆有父風、則他日必興其家聲。

(注) 写本「功名」

【寂住閣】

當處出生隨意 當處出生して意に随ふ。

急流水上不流 急流水上流れず。

52才01 急流水上^(注) 不流、此ニモノ点甚不可也。ニモノ点ナクシテ、直讀之。急流之水不流義而已。

(注) 写本「水上^{いみ}」。

卷十二上

【古樂府、有巴東三峽巫峽長、猿鳴三聲、淚沾裳。但以抑怨之音、和爲數疊。惜其聲今不傳。予自荊州上峽入黔中、備嘗山川險阻。因作二疊與巴娘、令以竹枝歌之。前一疊可和云。鬼門關外莫言遠。五十三驛是皇州。後一疊可和云。鬼門關外莫言遠。四海一家皆弟兄。或各用四句。入陽關小秦王亦可歌也】題

古樂府に、巴東の三峽巫峽長し、猿の鳴て三聲、涙裳を沾すといへること有り。但し抑怨の音を以て、和して數疊と爲す。惜むらくは其の聲の今に傳はらざることを。予荊州より峽に上りて黔中に入りて、備に山川險阻を嘗^なむ。因て二疊を作りて巴娘に與て、竹枝を以て之を歌はしむ。前の一疊は和して云ふべし。鬼門關外遠しと言ふこと莫れ。五十三驛是皇州と。後の一疊は和して云ふべし。鬼門關外遠しと言ふこと莫

れ。四海一家皆弟兄と。或は各^{おの}四句を用ゆ。陽關の小秦王に入れても亦歌ふべし。

10才16 和爲數疊 先輩云クリカエシ^く歌之也。

11才01 因作二疊……竹枝歌或云コキリコ、或云持竹枝歌、如一里方有祭、或云ムギツキウタ也。

【古樂府：(同前) 二疊

杜鵑無血可續淚 杜鵑血の涙に續くべき無し。

何日金雞赦九州 何れの日か金雞九州に赦されん。

〔…隋書刑法志、北齊肆赦日、令武軍設金雞及鼓於關門。或云起於西涼呂光。未知孰是究其旨。西方主兌。々爲澤。雞者巽之神。巽爲号令。故合是二物制其形揭於長竿、使衆人觀之也〕…隋書刑法志に、北齊赦を肆^{はし}にする日、武軍をして金雞を設けて及び關門に鼓うたしむ。或は西涼の呂光より起ると云ふ。未だ孰れ是れ其の旨を究むるといふことを知らず。西方は兌を主さどる。兌をば澤と爲す。雞は巽の神なり。巽をば号令と爲す。故に是の二物を合せて其の形を制して長竿に掲^かげて、衆人をして之を觀せしむ。

22ウ12 西方一^ニ兌上斷也。三^ニ巽下斷。文選云、巽羽二物トハ西方澤而金也。巽雞也。指金雞爲二物也。

【和答元明黔南贈別】

萬里相看忘逆旅 萬里相看着逆旅を忘る。
三聲清淚落離觴 三聲の清淚離觴に落つ。

〔老杜詩、相看俱衰年。左氏僖二年傳曰、保於逆旅。〕

注云、客舎也。古樂府曰、巴東三峽巫峽長。猿鳴三声、
淚沾裳」老杜が詩に、相看て俱に衰年。左氏に傳が二年の
傳に曰く、逆旅を保つ。注に云く、客舎なり。古樂府に曰く、
巴東の三峽巫峽長し。猿鳴くこと三声、淚裳を沾す。
26ウ08 注云逆旅客舎也。號稍遣人分依客舎、以聚衆抄晉邊邑。
抄初教反、又楚稍反。強取物。保トハ聚衆也。

【題驢瘦嶺馬鋪】

老馬飢嘶驢瘦嶺 老馬飢て驢瘦嶺に嘶ふ。
病人人生入鬼門關 病人は生きながら鬼門關に入る。

29才04 下句言、病人而人生入鬼門關、其情難耐也。病人知命自
謂其脚蹇故也。病人トハ多病ニシテシカモカタワウドナリ。

【行次巫山宋楸宗遣騎送折花厨醞】題

29ウ11 厨醞ハクリヤザケ也。騎トハ本邦俗漢所云若黨也。

【戲答劉文學】

人鮮甕中危萬死 人鮮甕中萬死危くして、
鬼門關外更千岑 鬼門關外更に千岑。

32才02 上句指道路危險、依漢史之義、則危字訓險。危萬死。
アヤウシト訓亦無害也。

【戲答劉文學（同前）】

問君底事向前去 君に問ふ、底事^{なんじ}を向前し去る。
要試平生鐵石心 平生鐵石の心を試みんことを要す。

32才08 向前トハス、ミシタガフ義也。

【外姪李光祖往見尚垂髫今觀寄嗣直小詩已可愛因次韻】
題

33才04 光祖ハ山谷并知命ガハ、カタノイトコ也。
33才07 嗣直ハ山谷并知命ガテ、カタノイトコドウシ也。

【將次施州先寄張十九使君三首】第三首

一別施州向十霜 一たび施州に別れて十霜に向んとす。
傳聞佳句望風降 佳句を傳へ聞きて風を望みて降す。

空拳不易當堅敵 空拳は堅敵に當たり易からず。
振臂猶思起病創 臂を振て猶思ふ、病創を起こさんことを。

40ウ12 ツトメテマイリアイフルキズヲ起スベシ。

【宋楸宗寄夔州五十詩三首】第一首

五十清詩是碎金 五十の清詩是れ碎金。
試教擲地有餘音 試に地に擲さしむるに餘音有り。

方今臺閣稱多士 方に今臺閣に多士と稱す。
且傍江山好處吟 且く江山の好處に傍て吟ぜよ。

46才11 其一云、幸今朝廷多士コトモカケズ、肇宜在此絕境、
而恣吟取山川之秀、知命告肇而言之。杜詩云、安危大臣在、何
必淚長流。墨点此義也。

卷十二下

【謫居黔南十首】第五首

冥懷齊遠近 懷に冥して遠近を齊しくす。
委順隨南北 順に委して南北に隨ふ。

歸去誠可憐 歸り去らんことも誠に憐むべけれども、
天涯住亦得 天涯に住するも亦得たり。

21才10 世説云、衛玠不言。々必入冥。蓋冥合之義、目ヲクイ
フサイデネマルヲ冥ト云。詩意、迂謫亦不可嗟。聊冥合而慰藉
耳。冥合其懷、則豈有故園與他郷之異乎。故云、齊遠近。々々
齊則无南北、无東西矣。委順ウチマカスル義也。

【次韻雨絲雲鶴二首】第一首

煙雲杳靄合中稀 煙雲杳靄合して中ごろ稀なり。
霧雨空濛密更微 霧雨空濛として密にして更に微なり。

28才10 下言言細雨蒙密、而下如霧也。本邦諺ニハキリサメ是
也。

【次韻謝黃斌老送墨竹二十韻】

古今作生竹 古今生竹を作す。
能者未十輩 能くする者は未だ十輩ならず。

34ウ15 生竹トハイキ／＼トシタル竹ヲ云也。

【次韻謝黃斌老送墨竹二十韻（同前）】

江南鐵鉤鎖 江南の鐵鉤鎖、
最許誠懸會 最も誠懸が會することを許す。

〔山谷自注曰、世傳江南李主作竹。自根至梢極小者二、
鉤勒成。謂之鐵鉤鎖。自云、惟柳公權有此筆法。…〕
山谷の自注に曰く、世に江南の李主竹を作ると傳ふ。根より
梢に至るまで極めて小なる者の二つ、鉤勒して成す。鐵鉤鎖
と謂ふ。自ら云ふ、惟だ柳公權此の筆法有り。…

39才10 樵云、勒者轡勒之意。言筆ヲヒキシメメテ出力、而強
健畫之。二鉤勒成者、言以二鉤挾筆而畫、以欲強健矣。

【再用前韻詠子舟所作竹】

國工裁主意 國工主の意を裁して
冷淡恐不愛 冷淡ならば愛せられざらんことを恐る。

49ウ05 若無桃而獨有竹、則其趣冷淡。々々者人生不愛故恐之、
而加桃李。本邦ニハエトコロ畫ヲ國工ト云也。

卷十三上

【又和二首】第二首

宴安枉席間 宴安枉席の間、
蛟鰐垂涎地 蛟鰐垂涎の地。

08才13 枉席有二説、其一云卧衣、謂被也。其一云卧席。注へ
リサシムシロナリ。

【次韻黃斌老晚游池亭二首】第一首

老夫多病蠻江上 老夫多病なり、蠻江の上。
頗憶平生馬少游 頗る憶ふ、平生の馬少游。

14才06 老夫トユイ、多病トユイ、蠻江トユイ、故用頗憶也。

【次韻黃斌老晚游池亭二首（同前）】第二首

杜門謝客恐生謗 門を杜ちて客を謝せば、恐らくは謗を生ぜん
ことを。

15ウ16 且作人間鵬鷖游 且く人間鵬鷖の游を作す。
此客非前篇所云佳士也。ヲカシゲナル者ヲ指。

【戲答史應之三首】第一首

先生早擅屠龍辛 先生早に屠龍の辛を擅^{はいて}にす。
袖有新硎不試刀 袖に新に硎で試みざる刀有り。
歲晚亦無雞可割 歲晚にも亦雞の割くべき無し。
庖蛙煎鱸薦松醪 蛙を庖し鱸を煎して松醪を薦む。

〔：舊本煎鱸作燭蜺。蓋眉之野人、或食蜺蜺。故鄉諺。

因以爲戲。：〕：舊本に鱸を煎るをば蜺を燭るに作る。蓋

し眉の野人、或は蜺蜺を食す。故郷の諺なり。因て以て戲と

爲す。：

17ウ15 作燭蜺―庖蛙謂、カイル、ハウチャウ。煎鱸謂、メ、

ジヤコテウサイ。燭蜺謂、イナゴテウサイ也。蜺上聲梗韻。蜺

音蜺。蜺似蠡而小也。

【寄題榮州祖元大師此君軒】

滿堂洗盡箏琶耳 滿堂洗い盡す、箏琶の耳。

請師停手恐斷絃 請ふ、師手を停めよ。恐らくは絃を斷ちなん。

30才16 斷絃、蓋非伯牙絶絃之義也。アマリツヲク 彈ぜば、

聞ク者モ情ニタヘカネ、絃亦キルベシ。

(注) 写本「ツヨク」

卷十三下

【次韻文少激推官祈雨有感】

未須丘垤占鳴鶴 未だ丘垤に鳴鶴を占むることを須^{もち}ず、

只要朝廷起臥龍 只要す朝廷に臥龍を起んことを。

05ウ02 本邦鶴雀 ヲアヲサギト云也。

(注) 写本「鶴雀」

【謝楊履道送銀茄四首】第二首

君家水茄白銀色 君が家の水茄白銀の色。

殊勝埧裏紫彭亨 殊に埧裏の紫彭亨に勝れり。

21才04 彭亨ハ、フクレタル兒也。

【戲贈家安國】

家侯口吃善著書 家侯口吃して善く書を著す。

常願執戈王前驅 常に願ふ、戈を執て王の前驅たらんことを。

33才02 吃ハドモリナリ。

【謝楊景山送惠酒器】

楊君喜我梨花盞 楊君我が梨花の盞を喜ぶ。

却念初無注酒魁 却て念ふ、初より酒を注ぐ魁無きことを。

矍矮金壺肯持送 矍矮たる金壺肯て持し送る。

按莎殘菊更傳杯 殘菊を按莎して更に杯を傳ふ。

〔蜀之酒魁、蓋詩人所謂、酌以大斗之遺制。象北斗有

魁柄也。：〕蜀の酒魁、蓋し詩人の謂はゆる、酌むに大斗

を以てすといふの遺制ならん。北斗の魁柄有るに象^{かたど}るなり。

：

37才10 注 蜀之酒魁、蓋入酒之瓶子類。或云、本邦所謂提子

之類乎。象北斗、則テウシノ如ニシテ、大ナル者也。

【題石恪畫嘗醕翁】

石媼忍酸喙三尺 石媼酸きを忍んで喙三尺。

石幡嘗味面百摺 石幡味を嘗めて面百摺。

39ウ15 下句、老翁嘗味、縮其面也。ウバトヲウヂト、コノ醋ヲ嘗ル。其顔二伸ト縮トノ両様アリ。石恪本傳所云、古僻人物、詭形殊相之其一品也。世界ヲヲカシク思テ、ノベシビメタル面ドモ也。アリくト畫出。真醋ヲ嘗ヲ見ルガ如シ。

【題石恪・嘗醋翁（同前）】

誰知聳膊寒至骨 誰か知る、膊を聳かして寒骨に至ることを。
圖畫不減吳生筆 圖畫吳生が筆に減ず。

40ウ03 其甚酸處ヲ、アリくトカキタルハシラレタルナリ。

卷十四上

【走筆謝王朴居士拄杖】

投我木瓜霜雪枝 我に木瓜霜雪の枝を投ず。
六年流落放歸時 六年流落放されて歸る時。
千巖萬壑須重到 千巖萬壑須く重て到るべし。
脚底危時幸見持 脚底危からん時幸に持たれん。
03才17 今スラ老矣重來時、脚力弥衰ヘン。可見此杖扶持也。持字於此可訓扶也。

【次韻楊明叔見餞十首】第七首

觀公有膽氣 公を觀るに膽氣有り。
自可繼前作 自ら前作を繼ぐべし。

16才10 但於谷之集中、御目二カ、リタルマデ也。

【次韻石七三六言七首】第四首

爲君試講古學 君が爲めに試に古學を講ず。

此事可賤天公 此の事天公に賤すべし。

君看花梢朝露 君看よ、花梢の朝露。

何如松上霜風 何ぞ松上の霜風に如かん。

（魯論曰、孝之不講、是吾憂也。又曰、古之孝者爲己。

蘇子美愛妾歌曰、此妾亦可賤天公。賤天公見上注。謂可質諸天地。…）魯論曰く、之を孝べども講ぜず、是吾が憂ひなり。又曰く、古の孝者は己が爲にす。蘇子美が愛妾歌に曰く、此妾も亦天公に賤すべし。天公に賤するは上注に見ゆ。天地に諸を質すべしと謂ふ。…

24才13 諸字ハコトバ字也。不可讀之。又ハコレヲ訓亦可矣。

【萬州太守高仲本宿約游岑公洞而夜雨連明戲作二首】

第一首

肩輿欲到岑公洞 肩輿にして岑公洞に到らんと欲すれば、
正怯衝泥傍險行 正に泥を衝き險に傍つて行かんことを怯る。
28ウ07 先輩云、肩輿本邦ノチリトリノ類。

【萬州太守：（同前）】第二首

今日岑公不能飲 今日岑公に飲すること能はず、
吾儕聞健且頻傾 吾儕聞健やかなることを聞きて且つ頻りに傾くらん。

（樂天詩、聞健偷閑且勤飲。又云、園林亦要聞閑置。其義、猶今人言聞早也）樂天が詩に、健を聞き閑を偷んで且く飲を勤む。又云、園林亦閑置を聞かんことを要す。其の義、猶今の人の聞き早しと言ふがごとくなり。

29才11 間健二字、世話耳之聡義也。本邦ノハヤ耳也。

【萬州下巖并序】第二首

僧緣蠶麥去 僧は蠶麥に縁て去り、
官教荔支來 官は荔支を教へ來る。

31才01 注爲業者、本邦所謂手ツリ等也。

31才05 今ハ俗漢ヨリ菓子楊子筋ヲ僧ニカケテトル。

【又戲題巖下】

往往携家來託宿 往往に家を携て來て宿を託す。

裙襦參錯佛衣巾 裙襦參錯す佛衣巾。

未嫌滿院油頭臭 未だ嫌はず、滿院に油頭の臭きことを。

蹋破苔錢最惱人 苔錢を蹋破して最も人を惱す。

32才06 舊抄云、在家漢往々信劉道者、或託宿。本邦所謂ツヤ

マウス者也。家指妻也。

【戲題巫山縣用杜子美韻】

東縣聞銅臭 東縣銅臭を聞き、

江陵換袂衣 江陵に袂衣を換ふ。

35才07 袂衣ハ本邦ノアワセ也。春服ト云（註）アワセ也。見魯

論。

（注）写本「ト云モ」

卷十四下

【病起荊江亭即事十首】第六首

死者已死黃霧中 死する者は已に黃霧の中に死す。

14才10 三事不數兩蘇公 三事は兩蘇公を數へず。
肖抄云、幸ニシテ生テ歸ルモノヲ。

【病起荊江亭即事十首（同前）】第十首

惇夫若在鑄此老 惇夫若し在らば此の老を鑄せん。

不令平地生崎嶇 平地をして崎嶇を生ぜしめじ。

24ウ09 鑄、子細教訓スル義也。

【次韻答黃與迪】

灑掃清樾下 清樾の下を灑掃して、

當爲果若期 當に果若の期を爲すべし。

33才07 某講、但指勝槩之佳地耳。必非黃斌老之東園歟。已於

下段拏東園、則此清樾者蓋總論。面白キ處ニ遊バント云義也。

卷十五上

【戲答王觀復醅醑菊二首】題

13ウ10 醅醑花本邦ノヤマブキ也。菊花如醅醑也。

【戲答王觀復醅醑菊二首（同前）】第一首

誰將陶令黃金菊 誰か陶令が黄金の菊を將て、

幻作醅醑白玉花 幻に醅醑白玉の花と作す。

小草眞成有風味 小草眞成に風味有り。

東園添我老生涯 東園に添我が老生涯を添へん。

14才17 本邦ニハヤマブキヲ醅醑花ト号ス。蓋其色純白、而含

黃故也。

14ウ08 添字、花ニ我身ヲ添ル義也。

【謝王子予送橄欖】

想共餘甘有瓜葛 想ふ、餘甘共に瓜葛有ることを。

苦中真味晩方回 苦中の真味晩に方に回る。

〔…晋書王說傳、導之子也。導与奕棋爭道、笑曰、相与有瓜葛、那得爲尔邪。…〕：晋書に王說が傳に、導が子なり。導与に奕棋して道を爭ふ。笑ひて曰く、相ひ与に瓜葛有り、那ぞ尔ることを爲すことを得んや。…

21ウ08 爭道、言、碁ヲウツトキ、手カヤシラスルヲ云也。父ノ導手カヤシヲセントスレバ、子ノ悦不肯。故導云ワドノト我レトワ、チント一族ノ分デワナキ歟。手カヤシ分ザイライヤトワナゼ云ソ。

【次韻馬荊州】

六年絶城夢刀頭 六年絶域に刀頭を夢みる。

判得南還萬事休 判じ得たり、南より還らば萬事休せんことを。

25ウ10 判得トハ、シカト心ニ決定之義也。

【和中玉使君晚秋開天寧節道場】

想見星壇祝堯壽 想ひ見る、星壇に堯壽を祝して

步虚聲裏靜無譁 步虚の聲の裏靜にして譁しきこと無きことを。

〔孟郊詩、因怪星宿壇。按南斗經曰、修設兩極二斗同醺一壇、各象斗星。…〕孟郊詩に、因て怪しむ星宿の壇。南斗經を按ずるに曰く、兩極の二斗を修設して同じく一壇に醺して、各斗星に象る。…

32ウ02 某謂、世俗ノ讀クセニ南斗注音主。

【次韻答馬中玉三首】第一首

卷沙成浪北風顛 沙を巻き浪を成して北風顛す。

銜尾千艘不敢前 尾を銜む千艘敢て前まず。

匝岸水居皆有酒 岸を匝る水居皆酒有り。

行人得意買江天 行人意を得て江天を買ふ。

36オ05 舟子飲此市酒而曰、天下ハ我ガ物ノヨ。コチヘマカサシメト云義也。

卷十五下

【次韻中玉水仙花二首】第二首

淤泥解作白蓮藕 淤泥は白蓮の藕を作すことを解す。

糞壤能開黃玉花 糞壤に能く黃玉の花を開く。

可惜國香天不管 惜しむべし、國香天も管せざることを。

隨縁流落小民家 縁に隨て小民の家に流落す。

〔…左傳曰、蘭有國香、人服媚之。秦少游樂府亦有惱殺人天不管之句…〕：左傳に曰く、蘭に國香有り、人之を服媚す。秦少游が樂府に亦人を惱殺して天も管せずといふの句有り。…

03オ15 惱殺人三字ハ、唐ノ世話ニ、ウツクシキ人ヲ見テ、ヤラトコロシヤト云義也。愁殺人亦同義。

【王充道送水仙花五十枝欣然心會爲之作詠】

坐對眞成被花惱 坐して對すれば眞成に花に惱せらる。
出門一笑大江橫 門を出て一笑すれば大江橫る。

〔…老杜詩雞虫得失无了時、注目寒江倚秋閣。山谷句意類此〕…老杜が詩に、雞虫の得失了時無し。目を寒江に注いで秋閣に倚る。山谷の句意は此に類す。

08才17 東坡詩第十三、二虫。注、水馬児カツラムシ。鸚鵡堆ヒバリ。

【謝檀敦信送柑子】

色深林表風霜下 色は深し、林表風霜の下。
香著尊前指爪間 香は著く、尊前指爪の間。
書後合題三百顆 書の後に合に三百顆を題すべし。
頻隨驛使未應慳 頻に驛使に隨て未だ慳むべからず。

13才07 乏少ナレドモ悦喜マウシタ。今度ハツバトクダサレヨ。

【謝答聞善二兄九絶句】第一首

身入醉鄉無畔岸 身は醉郷に入て畔岸無し。
心與飲伯爲友朋 心は飲伯と友朋を爲す。

20才11 此両句ヲハ教訓ノ巻（注）見タラバ可矣。

（注）写本「巻」

【戲呈聞善】

坐中索起時被肘 坐中に起たんことを索もとむれば時に肘せらる。
亦任傍人嫌我真 亦傍人の我が眞を嫌ふに任す。

27ウ01 被肘、言ハ、人ニ輕慢セラレ、肘ツキニセラル、義也。

卷十六上

【贈高子勉四首】第三首

聽它下虎口著 它的虎口の著を下すに聽まかす。
我不爲牛後人 我牛後まがの人爲らじ。

18ウ15 虎口着、暮家之語也。本邦云ク、ナカデヲヲロスト是也。牛後人ハ、本邦諺云、蛇ノ尾ニナランヨリモ反鼻ノ首ニナレ。又ユワシノトハ（注）ナルトモタイノ尾トハナラザレ。此等之義也。牛後人、指卑賤醜陋之人也。

（注）写本「ユワシノ首トハ」

【蟻蝶圖】

胡蝶雙飛得意 胡蝶雙び飛て意を得たり。
偶然畢命網羅 偶然として命を網羅に畢ふ。
群蟻爭收墜翼 群蟻爭て墜翼を収む。
策勲歸去南柯 勲を策はかつて南柯に歸り去る。

31才15 西行法師歌云、ウツ人モウタル、人モモロ共二只一時ノ夢ノ戲レ。與此篇同義。

卷十六下

【雨中登岳陽樓望君山二首】第二首

滿川風雨獨憑欄 滿川の風雨に獨り欄に憑る。
綰結湘娥十二鬟 湘娥の十二鬟を綰結す。
可惜不當湖水面 惜しむべし、湖水の面に當て、
銀山堆裏看青山 銀山堆裏に青山を看みぎることを。

08ウ09 第三四句、谷之願也。トテモノコトナラバ、晴天白日於洞庭湖水七八百里之中央、置君山青々然、而看之、則豈不快邪。

卷十七上

【罷姑熟寄元明用觴字韻】

未栽姑熟桃李徑 未だ姑熟桃李の徑を栽ゑず。
却入西江鴻鴈行 却て西江鴻鴈の行に入らんとす。
別後常同千里月 別れて後常に千里の月を同せん。
書來莫寄九回腸 書來て九回の腸を寄すること莫れ。

〔江西謂洪州。山谷鄉里。謝莊月賦曰、隔千里兮共明月。司馬遷書曰、腸一日而九回〕江西とは洪州を謂ふぞ。

山谷の鄉里なり。謝莊が月の賦に曰く、千里を隔て明月を共にす。司馬遷が書に曰く、腸は一日にして九回す。

14ウ16 某謂、入字イラントヲモヘリノ点簡要。入ラントヲモフタレバサモナクシテ、早罷テ去ル。不幸ノイタリ也。袁洪二州江西十一州之一面也。太平亦近也。

15才07 江西云々 袁州萍鄉縣即元明爲宰、洪州即谷之故里。谷在江東路太平州、袁洪江西之間、時々、兄弟相往來セントヲモフタレバ、サモナクシテ入事齟齬矣。

【瓊芝軒】

卓仙在し時養瓊芝 卓仙在し時瓊芝を養ふ。
深根固蒂活人命 根を深し蒂を固して人の命を活す。
憧憧來問此何草 憧憧として來て此れ何の草ぞと問はば、
但告渠是唐婆鏡 但告げよ、渠は是れ唐婆鏡と。

22ウ15 唐婆鏡或云和名ホウヅキト。未知實據也。

卷十七下

【次韻文潛立春日三絶句】第二首

誰憐舊日青錢選 誰か憐れまん、舊日青錢の選、
不立春風玉笋班 春風の玉笋班に立たざることを。
34才06 惡錢不足ナクユリスマセルヲ青錢選ト云也。

卷十八上

【次韻具可權題餘干縣白雲亭】

材収佛宮餘 材は佛宮の餘を収め、
工有子來助 工は子のごとくに來るの助け有り。
厦成燕雀賀 厦成りて燕雀賀し、
水滿鳬鴈翳 水滿ちて鳬鴈翳る。

08才08 注燕雀タモ此点可也。況や鳬雁マデニ於名士佳客。

卷十八下

【崇陽道中】

歌奔中夜女 歌ひて奔る中夜の女、
歸抱十年雛 歸るときに十年の雛を抱く。
22ウ01 本邦諺云モトノ婦無媒。

卷十九上

【德孺五丈和之字詩韻難而愈工輒復和成可發一笑】

獨笑眞成夢 獨笑眞に夢と成る。
狂歌或似詩 狂歌或は詩に似たり。
〔狂歌、謂如楚接輿之流。語言過差、恐其似詩、爲人据拾。不可不戒、亦終上句之意。……〕狂歌とは、楚の接輿の流の如くなることを謂ふ。語言過差する、其の詩に似て人の爲に据拾せられんことを恐る。戒めずんばあるべか

らず。亦上の句の意を終ふ。：

02ウ17 上句トハ、指第一二之句也。

【次韻徳孺感興二首】第一首

過時雖不采 時を過して采らずと雖も、

吾與菊花斟 吾菊花と斟す。

10ウ16 言菊過節人不采棄置如我者似之。菊ト我ト恰好的酒相共可樂也。

【謝人惠貓頭笋】題

27才17 谷今所云、冬ノネホリナリ。

卷十九下

【四休居士詩并序】序

〔太醫孫君昉字景初、爲士大夫發藥多不受謝。自號四休居士。〕太醫孫君昉字は景初、士大夫の爲に藥を發して多く謝を受けず。自ら四休居士と號す。：

01ウ03 大醫トハ以醫術爲家業者也。孫君昉君字掄稱而非名也。

【戲詠高節亭邊山簪花二首】題

30ウ14 簪ハダウサ也。スキダウサアリ、ニゴリダウサアリ。

卷二十上

【書磨崖碑後】

平生半世看墨本 平生半世まで墨本を見る。
摩挲石刻鬢成絲 石刻を摩挲するとき鬢絲と成る。

20才11 是亦南遷一之幸哉。言中有響、鬢成絲、言ハトテモノコトナラバ眼力未衰之以前見之、則合快意。今老眼ヲスリ、コレヲ看レドモ不分明。遺憾々々。

【題淡山巖二首】第二首

閩州城南果何似 閩州城の南、果たして何にか似たる。

永州淡巖天下稀 永州の淡巖天下に稀なり。

40才13 何似^(注) イカン此三点。

(注) 写本には「何似」に「イカン」「ナンジシカン」「イヅクンカニタル」の三つの訓点が付されている。

卷二十下

【游愚溪并序】

意行到愚溪 意行愚溪に到る。

竹輿鳴擔肩 竹輿擔肩に鳴く。

01ウ14 竹輿即肩輿也。僕夫之肩上キシ／＼ト鳴也。

【代書寄翠巖新禪師】題

〔黃龍死心悟新和尚、晦堂老人之嫡子。叢林謂之新孟八。初住洪州分寧之雲岩。次住西山翠岩。後住黃龍。〕

山谷嘗參晦堂。新清二老、蓋其道伴。黃龍の死心悟新和尚は、晦堂老人の嫡子なり。叢林に新孟八と謂ふ。初め洪州分寧の雲岩に住す。次に西山の翠岩に住す。後に黃龍に住す。

山谷嘗て晦堂に參す。新と清との二老は、蓋其道伴ならん。

05ウ14 注孟八郎。本邦諺、喚迂活者爲孟八郎。又云、デキシダイナル者ヲモ孟八郎ト云ナリ。

【代書寄翠巖新禪師（同前）】

嶺上早梅春 嶺上早梅の春、

參軍慙獨弄 參軍獨弄を慙づ。

11才04 獨弄ハ、ヒトリキヤウゲン。天社年譜云、雖有早梅開之句、不可作時節會。

〔付記〕

本稿は、基本的な企画を薦が策定し、実際の用例収集・翻刻・解説の執筆等は主に筆頭著者の山中が担当した。ただし、解説の字句の修正・翻刻の校正等には薦も参加しており、最終的な責任は両著者が平等に負うものとする。

本稿で使用した『帳中香』をはじめとする国会図書館の資料は、同館「デジタルコレクション」において公開されているもののうち「著作権保護期間満了のもの」であり、特別な申し込みを必要としないものである。貴重な資料を広く利用できるように尽力される同館に、心より敬意と感謝を表したい。

（やまなか のぶゆき・本学文学部非常勤講師）

（つた きよゆき・大阪大学日本語日本文化教育センター准教授）